

Part 1 基本情報

1. インドプロフィール

- (1) 正式名称 (和文)インド
(英文)India
- (2) 政体 共和制
- (3) 首都 ニューデリー
- (4) 面積 328万7263平方Km
- (5) 人口 10億2702万人(2004, World Bank Database)
- (6) 民族 インド・アーリア族、ドラビダ族
- (7) 言語 公用語 : ヒンディー語、英語(補助公用語)そのほか州レベルの公用語
- (8) 宗教 ヒンドゥー教80.5%、イスラム教13.4%、キリスト教2.3%、シーク教1.9%など
- (9) 略史 紀元前3000年頃インダス文明が栄える。紀元前3世紀マウリア朝隆盛(仏教)。4世紀グプタ朝興る(ヒンドゥー教)。16世紀ムガル朝興る(イスラム教)。1600年イギリスが東インド会社設立。1858年イギリスの直轄統治領となる。1947年パキスタン、インドの2国としてイギリスから独立。
- (10) 在留日本人 2,098人(2006年4月)(外務省HP)
- (11) 気候 国土が広大なので地域差が大きい。首都ニューデリー近辺では、冬(12月~2月、最低気温摂氏5度前後、最高気温15度前後)、夏(4~10月、そのうち5、6月は最高気温が45度を上回ることもある。7~9月は降雨が多く湿度が上がる)に大まかに分けられる。

【参考】

「外務省ホームページ-各国・地域情勢-」外務省
『最新世界各国要覧 10訂版2000』東京書籍

2. 業務のための基礎データ

(1) JICA事務所の概要(インド事務所)

住所 : 3A,(3rd Floor), Lotus Towers, Community Centre, New Friends Colony,
New Delhi-110025, India

連絡先 : 国番号 : 91

市外局番 : 011

電話 : +91-11-4167-2580~5

FAX : +91-11-4167-2586

URL : <http://www.jica.go.jp/india/index.html>

執務時間 : 9:00~17:00(昼休み13:00~14:30)

休日(2007年) :	1月 1日	New Year Holiday
	1月 2日	New Year Holiday
	1月26日	Republic Day
	1月30日	Muharram
	2月16日	Maha Shivaratri
	3月27日	Ram Navami
	4月 6日	Good Friday
	5月 2日	Buddha Purmima

8月15日	Independence Day
9月4日	Janmashtami
10月2日	Mahatma Gandhi's Birthday
11月9日	Diwali (Deepavali)
12月21日	Idu'l Zuha (Bakrid)
12月25日	Christmas Day
12月31日	Year End Holiday

事務所までの交通

【空港から】

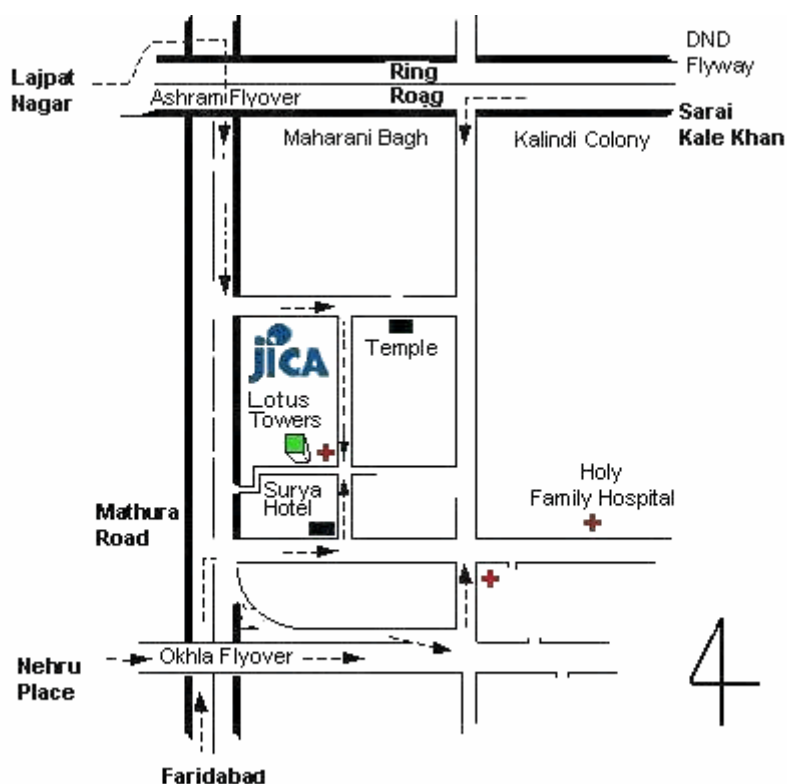
空港からは約1時間。空港にはプリペイドタクシー（カウンターで料金を目的地に応じて先払いし、同支払い証明書をプリペイドタクシースタンドで待機している運転手に渡す）カウンターがあるが、安全とは言えない。また、空港にたむろしているタクシー運転手や旅行業者が絡んだ盗難事件などが旅行者を対象として散発しており、できる限りあらかじめ空港からの送迎を確保しておくことが望ましい。

【空港以外から】

該当情報なし。

事務所周辺地図





(2) 日本との時差、
サマータイム

日本との時差 : -3.5時間
サマータイム : 実施していない。

(3) 祝日、
官公庁の休日

祝日(2007年) :	1月 1日	Idu'l Zuha (Bakrid)
	1月26日	Republic Day
	1月30日	Muharram
	2月16日	Maha Shivarati
	3月27日	Ram Navami
	3月31日	Mahavir Jayanti
	4月 1日	Milad-Un-Nabi
	4月 6日	Good Friday
	5月 2日	Buddha Purmima
	8月15日	Independence Day
	9月 4日	Janmashtami
	10月 2日	Mahatma Gandhi's Birthday
	10月14日	Idu'l Fitr
	10月21日	Dussehra
	11月 9日	Diwali (Deepavali)
	11月24日	Guru Nanak's Birthday
	12月21日	Idu'l Zuha (Bakrid)
	12月25日	Christmas Day

中央省庁の休日 : 上記祝日と土曜日、日曜日

地方省庁の休日 : 各地域により祝日が異なり、祝日と日曜日が休日。

- (4) ビジネスアワー 官庁 : 9:00~17:00(官庁により若干異なる。)
銀行 : 10:00~14:00(土曜10:00~12:00日曜休み。銀行により若干異なる。)
商店 : 商店街により異なる。
- (5) 言語 業務 : 英語。
ホテル、買い物、食事 : 英語が通用する。市場、一般商店などではヒンディー語をはじめとしたインド諸言語が用いられる。
- (6) 通貨 通貨 : インドルピー(Rs.)(1 インドルピー=100 パイサだがパイサはほとんど使用されていない)
為替レート : 1米ドル=44.44インドルピー(2007年1月8日現在)
1インドルピー=2.663円(同上)
最新の為替レートは以下のサイトで確認のこと
- (7) 関係機関 【在外日本関係機関】
- ・日本大使館
住所: 50-G, Chanakyapuri, New Delhi
電話: (11)2687-6564、2687-6581~3
FAX番号: (11)2688-5587
勤務時間: 夏時間(4月~9月)8:30~17:00。但し、水曜日は8:30~13:00。
冬時間(10月~3月)8:30~17:15。但し、第2及び第4水曜日は8:30~13:00
昼食休憩時間は13:00~14:00
休館日: 土曜、日曜
 - ・在コルカタ総領事館
55, M.N. Sen Lane, Tollygunge, Kolkata 700 040, India
電話: (33) 2421-1970
Fax番号: (33) 2421-1971
 - ・在チェンナイ総領事館
No.12/1, Cenetoph Road 1st Street, Teynampet, Chennai 600 018,
電話: (44) 2432-3860~3
Fax番号: (44) 2432-3859
 - ・在ムンバイ総領事館
No.1, M.L. Dahanukar Marg, Cumballa Hill, Mumbai-400 026, India
電話: (22) 2351-7101
Fax番号: (22) 2351-7120
 - ・JBICニューデリー事務所
住所: 3rd Floor, DLF Centre, Sansad Marg (Parliament Street), New Delhi
電話: (11)2371-4362~3、2371-7090
FAX番号: (11)2371-5066
勤務時間: 9:00~17:00(月曜~金曜)
昼食休憩時間は13:00~14:30
 - ・JETROニューデリー事務所
住所: 4th Floor, Eros Corporate Tower, Nehru Place, New Delhi-110019
電話: (11)4168-3006
FAX番号: (11)4168-3003

勤務時間:9:00～17:00(月曜～金曜)

昼食休憩時間は13:00～14:00

- ・国際交流基金(Japan Foundation)ニューデリー事務所

住所:5-A, Ring Road Lajpat Nagar-IV New Delhi-110024

電話:(11)2644-2967

FAX番号:(11)2644-2969

- ・海外技術者研修協会(AOTS)ニューデリー事務所

住所:Flat No 1307, 13th floor Gopaldas Bhawan 28 Barakhamba Road, New Delhi -110001

電話:(11)2370-4122

FAX番号:(11)2370-4123

- ・日本人会室(Japanese Association Delhi)

住所:B-7/2, Safdarjung Enclave, New Delhi

電話:(11)2616-6427

【インドの関係公官庁】

- ・大蔵省経済局(Department of Economic Affairs, Ministry of Finance)

住所:North Block, Lok Nayak Bhavan, New Delhi

電話:(11)2309-2373/2309

(8)有用サイト

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html>(外務省「各国・地域情勢」)

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/index.html>(外務省「渡航関連情報」)

<http://www.forth.go.jp/> (海外渡航者のための感染症情報)

<http://www.in.emb-japan.go.jp/default.htm> (インド大使館HP)

<http://www.delhi-nihonjinkai.com/>(デリー日本人会)

Part 2 生活情報

* 特に記載のない限り、JICA事務所のあるニューデリーの情報が中心になっています。

1. ホテル、住宅



1-1 ホテル

日本人がよく利用するホテルは以下のとおりである(詳細はイエローページを参照)。通常、宿泊料金にはHotel Expenditure Tax(デリーでは12.5%)が加算される。食事には8%のSales Taxが加算される(2006年9月現在)。なお、下記のホテルは主要なクレジットカード(VISA、MasterCard、American Express、Diners)が利用可能である。

10月から1月までの観光シーズンは値段が上がり、予約が取りにくくなるため、早めの予約が必要。特に近年、ホテル宿泊料の値上がりが激しい。

(高級ホテル)



- ・The Metropolitan Hotel Nikko New Delhi(日航ホテル)
- ・The Oberoi(オベロイ)
- ・Le Meridien(メリディアン)
- ・The Park(パーク)
- ・Maurya Sheraton(モーリア・シェラトン)
- ・Taj Palace(タージ・パレス)
- ・Taj Mahar(タージ・マハル)
- ・Hyatt Regency(ハイアット・リージェンシー)
- ・Radisson Hotel(ラディソン)
- ・Imperial Hotel(インペリアル・ホテル)
- ・Shanglira Hotel(シャングリラ・ホテル)

(中級以下ホテル)

- ・Vasant Continental(バサント コンチネンタル)
- ・Crowne Plaza Surya(クラウンプラザ・スリヤ)
- ・Diplomat(ディプロマット)
- ・Samrat(サムラート)
- ・J's Inn(ジェイズイン)
- ・Centrum(セントラム)

1-2 住宅事情

長期間滞在と短期間滞在では、住宅事情は異なる。短期間滞在の場合は、主にホテルを利用することになる。5つ星クラス(日航ホテル、オベロイ、メリディアン、モーリア・シェラトン、タージ・パレス、タージ・マハル、ハイアット・リージェンシー、ラディソンなど)のホテルでは、プール、テニスコート、アスレチッククラブなどがあり、停電に備えた自家発電装置もある。ただし、滞在費用はかなり高額である。

また、数は少ないが、高級住宅におけるPaying Guestとしての滞在（食事付き）も可能である。

一方、長期滞在者は（特に家族同伴の場合）、一般住宅を借り上げることになるが、快適に生活できる住宅の確保はなかなか難しい。一般に、現地の住宅には家具、電気製品、ガス台などはついておらず、日常生活に必要な水、電気、ガスなどのインフラ整備も概して不十分である。家主と賃貸契約を締結した後に、水道の水量が十分でないことが判明したり、電気系統の問題が発生したりすることも多々ある。

治安面はそれほど問題ないが、住宅を探す際には、隣や裏が空き地や公園でないこと、またグリル（鉄格子）がついている家屋を見つけることも、安全のために必要なことである。

住宅の契約は1年以上の前払いが要求される場合がある。通常、家具をはじめ冷蔵庫、冷凍庫などの生活上最も必要な電気製品は設置されていないので、借り手がすべて調達しなければならない（レンタルは可能）。ガスはプロパンガスで（一部都市ガスのある地域もある）、その容器（シリンダー）の権利の取得は、前任者から引き継ぐことが原則であるが、新たに取得することも困難ではない（10～15日かかる）。電話の権利も、前任者からの引き継ぎが原則であるが、最近では民間会社の参入もあり、電話の新規設置は容易になってきている（民間会社では2～3日、政府関係機関では10～15日）。中期間滞在（1年以内）用のアパートや下宿の類は少ない。

1-3 住宅の探し方

在留日本人の知人の紹介に基づいて不動産会社に照会してもらおうとよい。現地にも住宅仲介業者はたくさんある。JICA関係者が通常利用している住宅仲介業者（家具、車のレンタルも行っている）は以下のとおりである（詳細はイエローページを参照）。



- ・Ebel Services Pvt. Ltd.
- ・Guptasons

近年賃料が大幅に上昇しており、すべてにおいて満足のゆく住宅に入居することは困難になっている。地道に粘り強く住宅探しをすることが求められる。

1-4 住宅選定上の留意点

<居住地区の選定>

- ・安全 : 家屋に鉄格子の装備などが設置してあるか、また、空き地や公園に隣接していないかなどの確認。居住ブロックにゲートがあるほうが望ましい。
- ・衛生 : 近くにゴミ集積場や河川（用水路）がないことを確認。シロアリ、ゴキブリ、ネズミなどに注意。
- ・環境 : 周辺環境について家主や地域の住民の評判の確認。道路状況の確認。交差点の近く（騒音、排ガスのため）、地域の集会場および学校の近く（交通

渋滞、安全上の問題のため)は避けたほうがよい。またテロ対策のため英米国、イスラム教などの関連施設、宗教施設の周辺も避けたほうがよい。

- ・通勤、通学上の利便性 : 職場、学校までの距離、時間の確認。
 - ・インフラ : 停電、断水の状況の確認(地区により状況が大きく違う)。
- <不動産会社への照会>
- ・複数の不動産会社と接触する。
 - ・一戸建てかフラット(共同住宅)か : 最上階は避ける(夏の暑さ対策)。
 - ・部屋数、大きさ、バス・トイレの数 : 1部屋は物置用として確保。
 - ・予算、支払い条件 : 余裕をもった額を提示するとあとが楽である。
 - ・前の居住者の確認 : 転居した理由を確かめる。
 - ・電気容量などの確認 : 最低20kVA(キロボルトアンペア)必要。エアコンは1機につき4kW必要なので、3機同時に使えるくらいの容量がないと生活しにくい。無理をすると配電盤などの火災を起こすことがある。大容量電源コンセントは、冷蔵庫・冷凍庫の数を考慮する。
 - ・地下、屋上タンク : 貯水量の確認、ポンプの状況(故障がちでないか)の確認。タンクの状況(亀裂、さび、汚れ)を確認。
 - ・温水器(Geyser : ギザ)の容量 : 50リットル以上が望ましい。
 - ・使用人用居室の有無 : よい人材を確保するために、あったほうがよい。ただし、築年数の浅いものには設けられていないものが一般的。
 - ・車庫の有無、ドライブウェイ(家へ通じる私設車道) : ドライブウェイは家主と別であることが望ましい。
 - ・警備員 : 24時間体制での警備員配置が望ましい。
 - ・雨漏り : 修理不能の場合もある。

<物件の選定>

一度は同居者(家族)全員で物件を下見したほうがよい。現地の住宅は、2階建てや3階建てが多く、そのいずれかの階に家主が住んでいることが多い。この場合には、電気や水道のメーターやタンクが他階と別になっていることを確認する必要がある。住宅全体のセキュリティガードを雇用しているかも確認する。

1-5 住宅の契約

<家主との交渉>

- ・家賃、賃借期間 : 契約更新時は市場の状況を見て家賃交渉にあたる。最近、家主が契約更新時に家賃の値上げを求めるケースが増えている。
- ・支払い条件、前払いの期間 : 前払いは通常最低で1年間。家主はダメモトで自分のほうに有利な条件を要求してくるので、大いに交渉するとよい。
- ・キャンセル条項 : 最低何カ月前の通告が必要か。次の入居前準備の各項を参考にして、文書に残す。

<賃借契約>

契約期間は任期に合わせることが可能である。支払い方法は「前払い」が常

識になっている。契約に際し、立会人の要否を確認する必要がある。

<入居前準備>

- ・床磨き、屋内外の塗装：入居時の状態を写真で残すとトラブルが少ない。
- ・雨漏り部分の補修：入居前に家主負担で修理させる。
- ・地下、屋上タンクの清掃：入居前に家主負担で修理させる。
- ・鉄格子の設置：要交渉。必要不可欠とはみなされない場合もあり、自前で設置が必要となる可能性もある。
- ・入口扉の鍵の更新
- ・漏電チェック：家主と同居の場合、メーターは区別されているか確認する。
- ・塀、目隠し、外灯の整備：ガードマンの要否。
- ・備え付け機器、備品の作動確認：天井ファン、電灯、水洗トイレ、蛇口など。
- ・害虫駆除：蚊、シロアリ、ゴキブリ、ネズミなど。
- ・電話設置：手続きに長期間要することはないが、電話の権利は前任者から後任者へ引き継ぐのが原則。
- ・エアコンの設置：レンタル会社もあり(暖房機能があればなおよい)。
- ・家主と電気メーターの数値確認：必ず立ち会う。

1-6 ガス、水道などの手続きと管理

すべての商業ビルや一般住宅は、利用前に電気、水道の引き込み手配が行われており(さもなければ違法行為)、借り手が新たに手配する必要はない。ただし、家主立ち会いのもとで、入居時に電気と水道のメーターを確認しておく必要がある。

電話、ガスの設置については、「1-2 住宅事情」にあるとおり、基本的には前任者からの引き継ぎであるが、新規設置も容易になってきている。

参考情報として、電気、水道、電話などの申し込み機関を以下に記す。

- ・電気：BSES Rajadhani Power Limited(民間)
- ・水道：Delhi Water Board(政府)
- ・電話：Mahanagar Telephone Nigam Limited (MTNL)(政府)／Touchtel(民間)／Reliance(民間)／Tata(民間)／Airtel(民間)
- ・ガス：Indian Oil Corporation(政府)／Bharat Petroleum(政府)／Hindustan Petroleum(政府)

電気、水道、電話などの請求は、毎月定期的にあるわけではない。また、その請求額が不当に高い場合もあるので、メーターの数値は注意しておく必要がある。

不当な請求が来たときは、関係機関に出向いて交渉することになる。また、二重請求かどうかを必ず確認し、支払った際には領収証を必ず保管しておくことが肝要である。

1-7 家電

(1) 電圧

電圧220～240V、周波数50Hzである。日本から持参した製品を使用するには変圧器が必要である。変圧器も日本から持参する(あるいは日本製の変圧器を前任者から購入する)ことを勧める。

(2) コンセント、モジュージャックの形

コンセントの形状は3ピン丸型または2ピン丸型である。日本製品を使用する場合にはアダプタープラグが必要であるため、必要個数を日本から持参する、あるいは前任者から引き継ぐこと。一般的なコンセントではアダプターが必要である。

モジュラープラグの形状は日本と同型である。

(3) 家電製品

家電製品(洗濯機、エアコン、テレビ、ビデオデッキ、携帯電話など)は、近年は性能のよい現地製のものが出回っている。リースもできる。

日本から持参したほうがよい家電製品としては、変圧器(スタビライザーはインドで調達可能)、ホットプレート、空気清浄機(日本製のほうが高性能、冬のデリーは空気が悪くなる)、電気炊飯器(現地でも調達は可能)がある。そのほか、パン焼き器、電気式魚焼きグリル、ホットカーペット、ミシンなども必要があれば、日本から持参したほうがよい。これら日本製の家電製品は、前任者や帰国する在留日本人から購入することも可能である。

1-8 家具保険

デリーの外国人居住区では治安上の問題は少なく、また在留日本人は通常個人宅にガードマンを配置していることもあり、盗難、火災などの被害に遭うのはきわめてまれなケースである。しかし、高価な家具、備品があれば、保険をかけておいたほうが無難である。

1-9 その他

特になし。

2. 衣料、理容



2-1 衣料全般

(1) 一般事情

インドの夏は期間が長い(4～10月)ので、夏服は長期間着用することになる。酷暑季(5～6月)には気温が摂氏45度を上回ることもある。ただし、ホテルなどの室内では冷房がかなり効いていることがあり、上着が必要となることもある。

また、冬季(12～2月)には、最低気温が摂氏2～3度まで気温が下がるため、合服または冬服も必要となる。冬期の出張などの際は、コートがあれば便利である。デリーではオーバーコートは必要ない。

衣料品は廉価であり、子供用または大人の普段着として使用する分には問題

はない。また、注文服も手軽に作ることができる。

(2) 日本から持参したほうがよい衣料

背広をはじめ、日本で使用していた衣料はひと揃い持参するとよい。また、婦人のストッキング、紳士・婦人・子供用靴下は、入手可能であるが、品質が劣るので多めに持参したほうがよい。靴は普段履きであれば、入手可能である。しかし、スリッパはあまり種類がないので、持参したほうがよい。子供の靴は入手困難である。

(3) 現地で調達したほうがよい衣料

子供のTシャツやポロシャツ、大人の普段着などについては、種類も豊富に出回っており、現地での入手は可能である。

(4) その他の留意点

子供は、日本人学校で盆踊り大会などの行事があるので、浴衣一式を持参したほうがよい。日本人学校HPを参照。

2-2 礼装

(1) パーティー

男性は背広があればよい。女性の場合は、ワンピースやツーピースでよい。フォーマルドレスは持参すると便利であるが、着る機会はあまりない。

(2) 式典

男性、女性ともパーティーの場合と同様である。

(3) 冠婚葬祭

男性、女性ともパーティーの場合と同様である。衣服の色に関する決まりについては、宗教、地域などにより大幅に異なるが、一般的には、(特にヒンズー教徒の場合)赤は結婚、白は葬式の色とされている。

(4) その他の留意点

女性の和服は特別な場合を除き、必ずしも持参する必要はない。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗濯

クリーニング店は街中にある。背広やワンピースなどのクリーニングには一般的に高級ホテルを利用するほうがよい。しかし、技術的な面を考慮すると、高価なドレスや着物のクリーニングは(高級ホテルであっても)避けたほうが無難である。洗濯機、アイロンは入手可能である。

日本人がよく利用するのは、モーリア・シェラトン及びハイアット内のクリーニングセクションである。このほか、クリーニングのチェーン店London House, White Tigerなどが主要マーケット内にある。

(2) 仕立て、修繕

洋服の仕立てはきわめて廉価であり、日常衣類に関しては問題はない。商店街の洋服屋、あるいは自宅に仕立屋を呼んで注文することも可能である。修繕

は、クリーニング店で引き受けてくれる。

(3) 保管

雨季(7~9月)は湿気に注意する必要がある。ナフタリンは現地でも入手可能である。また、一年中ほこりが多いため、白などのほこりが目立ちやすい服の保存には、衣類カバー(布製、プラスチック製などが入手可能。ただし、使い勝手はあまりよくない)をかけて保存したほうがよい。

2-4 美容院、理髪店

ホテルや街角に多数ある。料金はまちまちであるが、ホテルではカットが300~500ルピー、パーマは1200~2000ルピー、シャンプーは100~200ルピーである。美容・理髪用品は現地製品が豊富にあるが、品質の劣るものもある。愛用しているものがあれば、日本から持参したほうが安心である。

主な美容院、理髪店は以下のとおりである(詳細はイエローページを参照)。

<美容院>



- ・Lakme Beauty Salon
- ・Le Meridien Hotel Beauty Palor
- ・Madonna
- ・Affinity Salon

<理髪店>

- ・Oxford Cut
- ・Verma's

3. チップ



3-1 チップ事情

(1) 習慣の有無

あまり必要ない。

(2) 各種サービスに対するチップ

高級ホテルなどは、荷物1個につき10ルピーが適当。レストランなどは料金の5~10%が適当である。ただし、請求書に含まれている場合があるので確認が必要。

4. 食生活



4-1 外食

(1) 一般事情

近年、デリーでは地元のインド人の間でも外食の習慣が普及したこともあり、ホテル以外でも日本人が利用できるようなレストランができてきた。また、気軽な喫茶店やカフェ(Balista、Café Coffee Daysなど)、ファストフードのチェーン店(マクドナルド、ドミノピザ、ピザハット、ケンタッキーなど)も数多く存在するようになった。

(2) 飲食店

レストランの夕食オープン時間は7:30~8:00ごろである。高級レストランは週末などは混む場合もあるので、予約をしたほうがよい。日本人の間でよく利用されている飲食店は次のとおり(詳細はイエローページを参照)。

<日本料理>



- ・タムラ(Vasant Vihar D Block とNew Friends Colonyマーケット内)
- ・サクラ(日航ホテル内)
- ・エノキ(インターコンチネンタルグランド内)

<鉄板焼>

- ・TK'S(ティーケース)(ハイアット内)

<インド料理>

- ・Bukhara(ブカラ)(オベロイ内)
- ・Khandahar(カンダハール)(オベロイ内)
- ・Haveli(ハベリ)
- ・Sagar Ratna(サガール・ラトナ)
- ・Saravana Bhavan(サラバナ・ババン)
- ・Karim(カリーム)

<中国料理>

- ・Oriental Bloom(オリエンタル・ブルーム)
- ・Taipan(タイパン)
- ・Mainland China(メインランド・チャイナ)
- ・Nang King(南京酒家)
- ・Golden Phoenix(ゴールデン・フェニックス)
- ・House of Ming(ハウス・オブ・ミン)
- ・Empress of China(エンプレス・オブ・チャイナ)
- ・Fujiya(フジヤ)(日本料理に近いものもある)
- ・Akasaka(アカサカ)(水炊きもある)

<イタリア料理>

- ・La Piazza(ラ・ピアザ)
- ・Ego(エゴ)
- ・Flavor(フレーバー)
- ・Azzuro(アズーロ)
- ・Diva(ディーヴァ)
- ・Italic(イタリック)

<フランス料理>

- ・Longchamp(ロンシャン)
- ・Orient Express(オリエント・エクスプレス)

<その他の西洋料理>

- ・Ten(テン)

- ・TGI's Friday(ティージーアイズ・フライデー)

<タイ料理>

- ・Bangkok(バーン・コック)
- ・Lee's Garden(リーズ・ガーデン)
- ・Ego Thai(エゴ・タイ)

<韓国料理>

- ・秘苑(ビー・フォン)
- ・Sun & Moon(サン・アンド・ムーン)

<ファストフード>

- ・Domino's(ドミノス)
- ・Pizza Hut(ピザ・ハット)
- ・Winpy's(ウィンピース)
- ・McDonald's(マクドナルド)
- ・Nirula's(ニルラス)
- ・Subway(サブウェイ)

<カフェ、喫茶店など>

- ・Balista(バリスタ)
- ・Fabcafe(ファブカフェ)
- ・Café Turtle(カフェ・タートル)
- ・Café Coffee Day (カフェ・コーヒー・デイ)

4-2 食料

(1) 一般事情

一般の食料は豊富に出回っている。経口感染症の病原対策として、食物には十分に火を通してから食することが肝要である。また、野菜については、農薬、肥料などが付着していることがあるので、入念に水洗いするなどの注意が必要である。日本食品の入手は一般のマーケットでは困難であるが、日本式コンビニ店(大和屋)などで若干入手できる。

(2) 主な食品の出回り状況

<米>

豊富に出回っている。一般に入手可能な米は、いわゆるインディカ米といわれる粘りけのない米である。中でも特に長い「バスマティーライス」が薫り高く、ビリアニ(インド風炊き込みご飯)や焼き飯に向いている。日本米の入手は困難だが(大和屋で入手可能)、日本米に似たブータン産米(パロライス)は、一部のマーケットで入手できる。

<パン>

食パンは、一般マーケット、菓子パンなどは主要ホテルや主要マーケットのベーカリーで入手可能である。

<肉類>

鶏肉はインドでは最もよく食べられる肉で、マーケットで入手可能である。マトンも豊富に出回っている。豚肉はチキンやマトンほど一般的ではないが、入手可能である。牛肉は、インド人の大多数を占めるヒンズー教徒が食べないため、簡単には入手できない。ベーコン、ソーセージなどの加工品はある。

<野菜>

季節変動はあるが、入手可能。日本野菜も入手できるようになってきた。一般的な野菜としては、ジャガイモ、トマト、カリフラワー、オクラ、ホウレンソウ、キュウリ、グリーンピースなど。最近では、白菜、ブロッコリー、ベビーコーン、アボカド、ズッキーニなども大きなマーケットに出回るようになった。

<果物>

バナナ、リンゴ、ミカン、マンゴー、ライチ、パパイヤ、ブドウ、洋ナシ、プラム、イチゴ、スイカ、メロンなど季節変動はあるが豊富である。

<魚類>

デリーで入手可能な魚類は、大半がボンベイなどから輸送されたものである。冬季(10~2月ごろ)にはマナガツオ、アジ、インドサーモン、エビなどが豊富に出回っているが、鮮度に注意が必要である。特に、酷暑季(4~6月)の魚類購入は、輸送状態に問題があるため避けたほうがよい。魚の缶詰ではインド産ツナ缶、外国産オイルサーデンなどが一般のマーケットで入手可能。

<乳製品>

牛乳、チーズ、バターなどは一般のマーケットで入手できる。

<調味料、食用油>

インド料理に多く使われる「マサーラー」は豊富にある。マサーラーは主に植物の実や種、根から作られた香辛料であり、種類も多種多様である。日本の調味料は、しょうゆは一部のマーケットで出回っている。みそ、みりん、ウスターソースなどは大和屋で入手可能。

<酒類>

インド国産のビール、ウイスキー、ワイン、ラム、シャンペンなどがある。外国の酒類も一部の酒屋では入手可能。

<食用油>

サンフラワー油、落花生油などがあり、使用にはなんら問題ない。

<飲料水>

水道水を直接飲用することはできない。水道水はいったん濾過し、煮沸することが必要である。浄水器を購入するとよい。ミネラルウォーターの入手は可能である。

(3)食料の入手

主な市場、スーパーマーケットは、以下のとおりである。

<市場(マーケット)>

・I.N.A. Market(アイ・エヌ・エイ・マーケット)

- ・Sarojini Nagar Market(サロジニ・ナガール・マーケット)
- ・Khan Market(カーン・マーケット)
- ・Defence Colony Market(ディフェンス・コロニー・マーケット)

<スーパーマーケット>

- ・Modern Bazar(モダン・バザール)
- ・Le Mache(ル・マルシェ)
- ・Morning Store(モーニング・ストア)
- ・Taiga India(大河インディア)魚類の購入が可能
- ・Yamato-ya(大和屋)

4-3 食器、調理器具

(1) 食器、調理器具などの入手

ほとんどの電気製品(冷蔵庫、トースター、ミキサー、電子レンジなど)は、現地製が入手可能であり、品質も年々向上してきている。故障した場合にも、現地製品のほうが修理は容易である。現地の電圧は220~240Vと電圧変動が大きい。ため、冷蔵庫などの電気製品には電圧安定器(スタビライザー)を接続して利用することを勧める。電圧安定器は現地で入手可能。炊飯器は、日本製に類似した現地製のものも出回っているが、品質は多少劣る。

包丁、まな板、鍋、フライパン(テフロン加工もあり)は現地製で十分間に合う。圧力釜も普及しており、安価で便利である。皿、コップ、フォーク、スプーンなどは現地製が豊富に出回っている。和食器は入手できないが、類似の陶器製品で間に合わせることは可能である。アルミホイルは現地製でよいものが出回っている。食品用ラップも現地製があるが、厚手でやや使い勝手が悪い。

食器、調理器具は、主要マーケットほか、デパートなどでも入手できる。

デリーにある主なデパートは次のとおりである(詳細はイエローページを参照)。

<デパート>



- ・Ansal Plaza(アンサル・プラザ)
- ・Ebony(エボニー)
- ・Big Jo's(ビッグ・ジョー)

近年デリー近郊のグルガオン・ノイダ地区に大規模なショッピングモールが増えている。

(2) 日本から持参したほうがよい食器、調理器具

上述の電気炊飯器のほか、はし、すり鉢、すりこぎなどは入手できないので持参したほうがよい。

5. 生活用品の購入



5-1 家電製品

電化製品(冷蔵庫、冷凍庫、洗濯機、エアコン、マルチシステムテレビ、マルチシステムビデオデッキなど)については、近年性能のよい現地製のものが出回っている。リースもできる。家電製品は、上記デパートや主要マーケットの家電製品店などで購入できる。

5-2 家具

基本的なものは現地調達が可能である。Panchcuiana Road(パンチクイナ・ロード)、Kirti Nagar(キルティ・ナガール)などの家具店街、Mehrauli-Gurgaon Road(メルリーグルガオン・ロード)沿いなどに家具店が多数ある。

5-3 日用品、雑貨

ほとんどの日用品や雑貨は、市場やデパート、主要マーケットで入手可能である。文房具もほとんど入手できるが、日本人学校で必要な学用品の一部はインドで入手できないので、日本から持参すること(持参する学用品については「15-1 (2)日本人学校」の項を参照のこと)。

5-4 工具、素材

基本的なものは、市場の雑貨店などで購入できる。

6. 金融機関



 Yellow Page

6-1 金融機関

(1) 銀行

デリーにある日本の銀行は以下のとおり(詳細はイエローページを参照)。

・三菱東京UFJ銀行

(2) 口座の開設と閉鎖

ドル口座は開設できないが、外国人の場合は当座預金(Current Account)、預貯金(Saving Account)のルピー口座を開設することが可能である。海外からドルや円などで送金された場合は、自動的にルピーに換金されてルピー口座に入金される。

(3) 小切手

現地では支払いに小切手がよく利用されている。口座開設に伴って小切手が支給される。四半期ごとに口座開設名義人あてに口座の支出明細ステートメントが送付される。

(4) 換金方法

ドル、円ともに、現金やT/Cからルピーへの換金が可能である。銀行、または宿泊先のホテルまたは市井の両替商で換金できるが、その際、パスポートを提示する必要がある。CitibankなどはATMからの現金引き出しも可能(ただし、1回の引き出し額に制限がある)日本の銀行口座から海外利用可能のキャッシュカ

ードで引き出すこともできる。

6-2 クレジットカード

ほとんどのクレジットカードが使用可能であるが悪用される可能性もあるため明細書を確認すること。

7. 交通事情



7-1 交通手段

(1) 一般事情

インドの大衆的な乗り物は、オートリキシャ、バス、列車、タクシーなどである。タクシーにはメーターが備え付けられているが、料金の変更に従ってメーターの調整が行われるとは限らないため、支払いは調整表に基づいて請求される。

また、オートリキシャは三輪車で、安定が悪いため、ほかに交通手段がない場合を除いて利用は勧められない。列車は旅行に便利であるが、安全上の問題があることは否めない。列車の予約は個人でもできる。

(2) 空港から市内への移動

空港からは約1時間。空港にはプリペイドタクシー(カウンターで料金を目的地に応じて先払いし、同支払い証明書をプリペイドタクシースタンドで待機している運転手に渡す)カウンターがあるが、安全とは言えない。また、空港にたむろしているタクシー運転手や旅行業者が絡んだ盗難事件などが旅行者を対象として散発しており、私用であっても、できる限りあらかじめ空港からの送迎を確保しておくことが望ましい。

(3) 自家用車を利用する場合

自動車の通行は、日本と同じ左側通行であるため違和感はない。また、デリーの主要道路は道路幅も広く、概ね整備されている。しかし、デリー等の大都市では道路容量に対して車両が多いため、朝夕のラッシュはひどい。また、交通マナーが非常に悪い(特に信号無視が多い)、自ら運転せず、運転は運転手に任せようがよい。ニュー・デリー、オールド・デリーともに道路はバス、トラック、タクシー、オートリキシャ、オートバイ、自転車など、速度の違う乗り物が、あたかも競走しているかのように雑然と走行している。また、動物や歩行者の突然の飛び出しもあるので、通行には細心の注意が必要である。バス、トラックは交通ルールを無視して走行するケースが多いので、特に注意が必要である。

(4) レンタカーなどを利用する場合

レンタカーは、日本のように車だけを貸し出すケースは少なく、運転手付きで乗用車を利用することが多い。主なレンタカー会社は以下のとおり(詳細はイエローページを参照)。



- ・Ananda Travel Related Services
- ・ORIX Auto and Business Solutions Ltd

(5) 地図

簡単なもの(『Eicher City Map』など)であれば、ホテルや町の書店で入手できる。また、主要都市の地図も書店で入手が可能。観光客向けの無料地図も空港やホテル等で入手可能である。

7-2 交通事故、盗難

(1) 対処方法

加害者、被害者の別を問わず、負傷者を病院に運ぶこと。次に、現場はできるだけそのままにして(現場での議論などで長居しない)最寄りの警察に事故の報告をすること。さらに、事故の程度により加入保険会社へ届ける必要がある。

事故現場にはやじ馬がすぐに集まり、これらの集団は、外国人がインド人や牛などを死傷させ、その救助措置に手間どっているのを見ると感情的に激昂し、しだいに暴徒化する場合がある。したがって負傷者の救助については無理をせず、現場の雰囲気から身の危険を感じたら、いち早くその場を離れ、そのまま最寄りの警察に駆け込み、事故の届けをすることも考えたほうがよい。

事故現場では、相手方の運転手名、会社名、住所、電話番号、車両ナンバーなどをメモし、また、事故を取り扱った警察官の所属、役職、氏名、電話番号などを確認しておくとい。

(2) 救急病院

緊急の場合は、救急医療を行っている下記の医療機関(詳細はイエローページ「11.医療機関」の項を参照)に直接電話し、病院から救急車を派遣してもらうか、もしくは自ら病院へ行かなければならない。



- ・Indraprastha Apollo Hospital(アポロ病院)
- ・Ashlok Hospital(アシュロック病院)
- ・Rockland Hospital(ロックランド病院)

(3) 車両の盗難、車上荒らし

車両本体の盗難はそれほど多くないが、タイヤ、ホイールキャップ、ミラーなどの部品を盗まれることがよくある。駐車する場合は、荷物をトランクに入れて目につかないようにし、車を離れる際には必ずドアロックをすること。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

基本的には日本の交通法規とほぼ同じであるが、ほとんど守られていないので、原則として自分では運転しないほうが無難である。日本と異なる具体的な例としては、信号が赤でも車も人も交差点に入ること、道路(中央分離帯が多い)に牛や物乞いがいること、幹線道路であっても歩行者の横断があることなどである。いずれにしろ、交通違反は常に行われていると思って細心の注意を払って運転をする必要がある。重要なことは、ルール無視のドライバーが多いなかで、あわてず、焦らず、忍耐強く安全運転を心がけることである。

逆に歩行者の立場として気をつけるべきことは信号を過信しない、歩行者優先の運転をしていないことを意識して道路を横断する、横断するのかもしれないのかの意思表示をしっかりとすることである。

(2) 罰金、罰則

スピード違反(制限速度は場所により異なるが、ふつうは時速50km)の罰金は400ルピー。排気ガスチェック(Pollution Check)を3カ月ごとにガソリンスタンドで受け、問題ない旨の証明書を車に張り付けることが義務づけられている。それを怠った場合は、1回目、2回目の罰金が100ルピー、3回目は1000ルピーとなる。シートベルト(前座席)着用を怠った場合や信号無視の罰金は、それぞれ100ルピーである。

7-4 車の修理

(1) 部品

あえて純正部品を求めなければ、ほとんどの部品が入手できる。しかし、輸入車の部品は入手困難であり、輸入に長期間を要する場合が多い。なお、タイヤは現地製のものがあるので問題はない。

(2) 修理工場

簡単な修理であれば十分可能である。それぞれのメーカーの代理店・修理店で修理を依頼するほうが安全である。

主な修理工場は以下のとおりである。



- ・Lakozy Motors(トヨタ車の場合)
- ・Maruti Service Station(Maruti-Udyog社の車の場合)
- ・MB Motors

8. 通信



8-1 電話

(1) 一般事情

通常の電話設置にはそれほど時間がかからないが、基本的に前任者の電話を引き継ぐ。しかし、設置後の故障も多いので、携帯電話の番号も併せて日本の親類・知人に連絡しておくといよい。電話を設置する場合の申請、不通(しばしば起こる)の場合の修理依頼、苦情などは、居住地のゾーンの電話局(Mahanagar Telephone Nigam LteDelhi)に申し込む。

街頭の公衆電話は少ないが、電話ブース(STD/ISDブース)は多数存在する。最近では携帯電話も普及し始め、簡単に入手できる。

(2) 国内電話

国内主要都市には直接ダイヤルできる。主な都市の市外局番は、以下のとおりである。

- ・デリー :011
- ・ムンバイ :022

- ・コルカタ :033
- ・マドラス :044

(3) 国際電話

国際電話は、ISD(International Subscriber Dialling)が自宅の電話に設置されていれば、直接ダイヤルできる。また、市内のSTD/ISDブースでかけることもできる。

日本へかける場合は、00(国際電話識別番号)-81(日本の国番号)-市外局番(最初の0をとる)-相手先電話番号となる。日本までの通話料金は24ルピー／分である。海外からインドへかける場合のインドの国番号は91である。

(4) 携帯電話

携帯電話は普及しており、現地で簡単に調達できる。主な携帯電話会社は、以下のとおりである(詳細はイエローページを参照)。



- ・Airtel
- ・TATA Indicom
- ・Hutch
- ・Reliance
- ・MTNL/BTNL

8-2 電信

(1) ファクシミリ

ホテル、または町のファクシミリ請負店で簡単に発信できる。

(2) テレックス

ホテルなどから発信できる。

(3) 電報

郵便局から国際電報を打電することができる。料金は、2ルピー／語である。

(4) インターネット

現地には、インターネット接続プロバイダーが数多く存在する。滞在期間、利用形態に応じて、現地アカウントを利用するか、ローミングアクセスを利用するかを選択も可能である。ブロードバンド接続が可能なプロバイダーもあり、利用形態によって料金は異なる。

代表的なインターネット・プロバイダーは以下のとおり。



- ・Airtel
- ・TATA Indicom/VSNL/Dishnet
- ・Spectranet
- ・Sify
- ・Reliance

8-3 郵便

(1) 一般事情

一般の郵便は、日本から現地まで3～4日、逆に現地から日本までは8～10日くらいで到着する。はがきや封書などは市内の郵便局に持参するか、または市内のポストに投函する。料金は、一般のはがきが8ルピー、封書20gまでが15ルピーである。

急ぐ場合にはEMSもしくは民間クーリエ（国際宅配サービス）を利用するとよい。

(2) 課税

日本から現地にビデオテープ等を送付する場合は、少量ずつ送付したほうがよい。一度に大量に送ると、商業用とみなされ課税される場合がある。

(3) 国際宅配サービス

Yellow Page OCSがよく利用されている（「(1) 一般事情」の項を参照）。他にFedEx、DHLも利用が可能。

9. コンピューター



9-1 ハード、ソフト

(1) 調達の方法

パソコンおよび周辺機器の入手は可能である。ただし、日本語ソフトについては代理店にない場合が多く、シンガポールなどから取り寄せることになり、時間がかかる。

Apple社の代理店がいくつかあり、現地での修理も可能であるが、現地ではIBM系のコンピューターが一般的である。

なお代理店は以下のとおり（詳細はイエローページを参照）。

- Yellow Page**
- ・RSG Infotech (P) Ltd. (RSGインフォテック)
 - ・Fujisawa total solutions (日本人経営、日本語対応可能)

(2) 使用の際の注意

現地の電圧は220～250Vと電圧変動が大きいため、電圧安定器（スタビライザー）を接続して利用すること。電圧安定器は現地で入手可能。

大きなホテル内のビジネスセンターからは、電子メールの発信も可能である。接続コネクタの形状は、日本と同じモジュージャックであることが多い。

(3) 修理

コンピューターの修理は、以下のところで行っている。

- Yellow Page**
- ・RSG Infotech (P) Ltd. (RSGインフォテック)
 - ・Fujisawa total solutions (日本人経営、日本語対応可能)
 - ・Tata Nova (タタ・ノバ)

10. 職場環境、 勤務条件



10-1 職場環境、勤務条件

中央官庁は週休2日(土・日休み)であるが、地方官庁は週休1日(日休み)が一般的である。

(1) 就業時間

具体例として、下記に2件のプロジェクトを挙げる。これらは中央政府の規則に沿っており、実際は事務職や研究職などにより30分程度のずれがあるが、専門家と多くのカウンターパートは下記の就業時間である。ただし、州政府の関連機関はそれぞれ別の就業時間体系を持ち、30分程度のずれがある。祝日も州により異なる。

<新興下痢症対策プロジェクト(コルカタ、西ベンガル州)>

JICA専門家については、9:00~18:00が基本的な勤務時間。プロジェクト補助員については、原則として9:30~17:30(昼休み13:00~13:30)である。土曜、日曜は休み。

研究スタッフは、土曜日や祝日にも勤務することが多い。祝日は年間17日(固定)に2日(中央政府などが定める祝日から選択)を加えた19日である。

<二化性養蚕技術普及強化計画プロジェクト(バンガロールおよびマイソール、カルナタカ州)>

・バンガロール事務所：

9:30~18:00(昼休み13:30~14:00)

土曜、日曜は休日。祝日は年間17日である。

・マイソール事務所：

9:00~17:00(昼休み13:00~14:00)

日曜休日。毎月第2土曜が休日である。



専門家執務室(バンガロール)

(2) 有給休暇

上記の例に関して、有給休暇は以下のとおり。

<新興下痢症対策プロジェクト>

研究スタッフについては、中央政府の規定に基づき、年間8日+祭事休暇2日+長期取得休暇30日(精勤1年後に取得。半年につき15日ずつ、最大300日まで繰り越し可)である。

そのほか、病気療養休暇が年間最高20日 専門家勤務先(バンガロール)(half-pay leave)。プロジェクト補助員については、有給休暇14日となっている。

<二化性養蚕技術普及強化計画プロジェクト>

Central Silk Boardの職員の場合は、上述(「(1)就業時間」の項を参照)の中央政府の規定のとおり。

(3) 執務室

執務室の状況は、以下のとおり。

<新興下痢症対策プロジェクト>

研究所から与えられたプロジェクト用事務室で執務している。

<二化性養蚕技術普及強化計画プロジェクト>

・バンガロール事務所：

配属機関が準備したパーティションで区切られたスペースを使用している。補助員やコピー機、打ち合わせスペースもある。区切られた専門家執務スペースが2人分ある。



専門家(バンガロール)

電話は直通ラインが設置されており、所内LANからインターネットに接続できるが、非常に不安定で遅い。ダイヤルアップ接続も可能だが、ISPの問題でつながらないこともある。

・マイソール事務所：

配属機関が準備した半独立した建物を使用している。パーティションで区切られた専門家執務室が2人分、会議室、倉庫、補助員、コピー機室を備えている。直通外線電話があり、所内LAN、ダイヤルアップ接続ともにバンガロールより状態がよい。さらに、各専門分野別の棟に担当専門家の執務室があり、個室またはカウンターパートと同室となっている。各執務室ともLANが利用できるが、直通外線電話がない場合もある。

(4) 通勤事情

通勤事情は、以下のとおり。

<新興下痢症対策プロジェクト>

一般職員はバス、オートリキシャ、自転車、徒歩による通勤であるが、一部の上級研究員は自家用車で通勤している。

<二化性養蚕技術普及強化計画プロジェクト>

職員の多くは職場の提供する送迎車や送迎バス、または公共バスなどで通勤している。

車両を購入して通勤することも可能だが、交通事情が日本と異なるので、運転手の雇用を考慮すべきであろう。

11. 出入国手続き



11-1 入国

(1) 空港施設概要

デリー市内中心部から南西方面に車で約1時間の地点に、インディラ・ガンジー国際空港がある。

入国時には、通常、旅客機からの専用通路を通過して空港ビル内に入り(2階)、エスカレーターを通過して1階に下りると入国審査ゾーンとなっている。入国審査後、X線による手荷物検査を受け、預託荷物をターンテーブルから降ろし(預け荷物が出てくるまで時間がかかることがある)、税関検査を通過して、出口に出る。空港内(1階)の出口付近に待ち合わせ場所があり、大勢の出迎え者がプラカードを持って待機している。そこから空港ビル外に出ると、一般車両乗り場がある。なお、出国ロビー(チェックインカウンター、出国審査場)は空港ビルの2階部分にある。

(2) 入国手続き書類

入国審査には、入国カード(通常、機内で配られる)、パスポート、ビザ、税関申告書が必要である。

(3) 入国審査

特に問題はない。ここ数年、入国審査にかかる時間も少なくなり、比較的スムーズである。審査の際に通関用カード(入国カードの半券)が戻されるので、確認してからカードに必要事項を記入し、署名をして税関検査所出口付近の税関係員に渡す。

(4) 税関検査

申告するものがない場合は、通関用カードを係員に渡すだけで問題ない。しばしば荷物の抜き打ち検査が行われる。

(5) 空港内での留意点

空港内で盗難、病気、事故が発生した場合、ただちに近くにいる航空会社の職員か空港職員に相談する必要がある。また、万が一、ビザやパスポートの問題が発生した場合に備え、関係者の電話番号は、メモなどに記して常に携帯しておく必要がある。

(6) 空港からの主な交通手段

プリペイドタクシーが利用できる。税関検査所出口付近にプリペイドタクシーのカウンターがあり、そこで申し込む。料金は約300ルピー前後である。

(7) その他の留意点

空港にはプリペイドタクシーカウンターがあるが、必ずしも安全とはいえない。また、白タクは絶対に利用しないこと。たとえ私用であっても、可能な限り空港からの送迎を事前に確保しておくことが望ましい。

11-2 出国

(1) 出国時の概要

空港へ入る際、警官から航空券の提示が求められる。空港に入り、機内持ち込み荷物をX線に通じたあとで、搭乗手続きをする。

搭乗手続きの際には、必ず手荷物用のタグをもらい、すべての手荷物につけておくこと(セキュリティーチェックで必要となる)。また、搭乗手続きを終えたら出国カードに必要事項を記入し、出国審査を受ける。そこでパスポートと搭乗券にスタンプを押してもらい、次に税関検査となる。その後セキュリティーチェックへと進み、手荷物タグにスタンプを押してもらう。

(2) リコンファーム

現在では、出発の72時間前までにリコンファームを行わなくても、自動的にキャンセルになることはないが、国際線も国内線も、念のために前日までにリコンファームを行ったほうがよい。ただし、JL、TG、SQは必要ない。

(3) チェックイン

国際線は、フライトの予定出発時刻の2時間前には空港に到着し、チェックインを済ませること。国内線は、フライトの予定出発時刻の1時間前にチェックインする。

(4) 空港利用税

現在空港利用税は廃止されているが、それに代わる税として政府航空行政税 (Government Administration Fee、コード番号 : YR) が一人一律300ルピー課されている。その他 Passenger Service Fee (コード番号 : WO) が1人225ルピー、Insurance and Fuel Service Fee (コード番号 YQ : 金額は目的地により異なる) が課される。(すべてチケット代に含まれている)。

(5) その他の留意点

持ち出し可能な品目について確認すること。象牙、アンティーク、動物の皮の持ち出しなどが禁止されている。

11-3 帰国手続き

(1) 帰国時に必要な事務手続き

航空券、所得税支払い証明書の提出が求められる。

(2) 車の処分

一般市場には、中古車の買い手(中古品の取り扱い会社、旅行エージェント、不動産関係のエージェントなど)が多数存在する。しかし、いずれの買い手であっても、売却の前に、中古車の鑑定業者に売却価格の相場を見積もってもらうことが望ましい。また、一般市場で売却する場合には、帰国直前に多額のルピーを手にする事になり、また、売却後クレームをつけられることもあるので、できれば後任者に売却することが望ましい。車の所有権の移転手続きについては、デリー市運輸当局が所管しており、所定の用紙に記入の上、同運輸当局に申請する。

(3) 家財道具の処分

家財道具は、通常は後任者に売却するが、家財道具買い取り会社も利用できる。また、デリーには引っ越し会社(運送会社)が多数あるが、在留日本人がよく使う会社は以下のとおりである(詳細はイエローページを参照)。

<家財道具買い取り会社>



- ・Diplomate Services
- ・Certified Public Auctioner

<引っ越し会社(運送会社)>

- ・Japan Express
- ・Nippon Express(日通)

また、引っ越し以外で日本に荷物を送る場合、郵送小包、EMS、クーリエ(OCS、DHL等)などの手段がある。クーリエは早くて確実だが、料金は高い。ま

た、それぞれ重量によって料金が異なる。

(4) 住宅の明け渡し

インドの場合、基本的には家賃は1～2年間前払いなので、契約期間内に自分の後任者が赴任する場合、後任者が同じ住居を引き継ぐことになる。この場合、帰国日程決定後、ただちに家主に連絡し、内装の手直しを依頼する必要がある。

(5) 外貨持ち出し規制

インド人の一般旅行の場合、外貨持ち出し上限は2000米ドルである。そのうち現金は500米ドルまでで、T/Cは1500米ドルまで持ち出し可能である。

外国人の外貨持ち出し上限額は1万ドルであり、そのうち現金は2500米ドルまで、T/Cで7500米ドルまで持ち出し可能である。

ただし、外国からインド国内銀行への外貨送金分は、インド準備銀行の証明書があればすべて持ち出しが可能である(外国からインドの国内銀行に外貨を送金するとすべてルピーに換金されて、口座に振り込まれる。帰国時に、口座に残ったルピー残金を米ドルに換金して国外に持ち出す際は、インド準備銀行の証明書があれば、いくらでも持ち出せる)。

12. 治安、 緊急時の心得



※生命・財産に直結することでもあり、治安・安全情報に関しては、各自の責任において最新かつ正確な情報を入手してください。

12-1 暴動、クーデターなど

(1) 一般事情

カシミール紛争、アッサム州民族間対立のほか、ヒンズー至上主義者とイスラム教徒の宗教紛争、過激ヒンズー教徒によるキリスト教徒および施設への暴力事件、ヒンズー教徒とイスラム教徒の対立、辺境地域での独立運動など、多様性国家の宿命であるコミュニズムに起因する暴動はあとを断たず、インド全体としては、ここ2～3年、治安は悪化の傾向にある。これらのテロは、外国人をターゲットにすることはほとんどないが、一般の市民を巻き込む無差別な犯行であることが多く、被害に巻き込まれないよう日ごろから注意が必要である。特に、不審物には注意し、車の下回りの点検もすること。また、テレビ、ラジオ、新聞などの情報にも注意することが必要である。

(2) 対処法

爆弾テロは、外国人をターゲットにすることはほとんどないが、一般の市民を巻き込む無差別な犯行であることが多く、被害に巻き込まれないよう注意(マーケット、宗教施設への長時間の滞在をしない、不審物に注意、テレビ、ラジオ、新聞等の情報に注意等)が必要。

12-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況

過去に日本人男性旅行者が、悪質旅行業者に殺害される事件が起きた。このような外国人旅行者をねらった事件のほかに、デリーでは、ここ1～2年、外国人

を含む地元の裕福な家庭をねらった押し込み強盗や、路上強盗、殺人事件などが発生している。なお、テロはデリー市内(特にオールド・デリー)でも発生しており、留意が必要である。

(2) 住宅の防犯対策

防犯対策については、個人レベルで注意し、油断さえしなければ、かなりの事故・犯罪を未然に防ぐことができると思われる。家屋などの防犯対策については、日ごろから安全対策を意識して行動することが重要である。なお、近年デリーでは、一般住宅街で使用人がらみの犯罪(盗難がほとんど)が散発している。デリー警察では、使用人を新たに雇う場合、使用人の顔写真、住所、本籍を最寄りの警察に届け、身元確認することを勧めている。

空き巣などから家を守るには、セキュリティーをしっかりしているよう見せることが重要である。ガードマンを雇うのも有効である。窓の鉄格子などもインドでは必須である(内側に取り付ける)。また、室内機・室外機一体型のエアコンの場合、周囲の押さえがベニヤ板のみといった場合もあるので、強化する必要がある。なお、非常事態にどういう手順で誰に連絡するかといった詳細をきちんと決めておくことが大事である。

(3) 市中での防犯対策

街角での犯罪としては、ひったくりがある。かばんをたすきがけにしていたため、バイクに乗ったひったくりに引きずられて骨折したという事件もあった。かばんはふつうに肩からかけ、手前に抱くようにして警戒している様子を見せること。また、街中で不必要にかばんを開けないように注意する。

車に乗っている際の外部からの侵入や盗難事故などを防ぐために、ドアロックを徹底すること。

(4) 注意すべき場所、危険地域

インドでは、従来型のテロが、政府機関、一般市民が集まる込み合った商店街、駅などで頻発するので注意する。また、不必要にそのような場所に行かないようにすることが大切である。不審なかばん、小包などにも注意すること。

(5) 被害時の心得

強盗などに遭った場合は、決して抵抗しないこと。生命の安全第一で逆らわず、また、紛らわしい行動は一切せず、冷静に相手を刺激しないよう対応すること。

12-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況

デリーでは大きな災害は起こっていないが、雨季の降雨による道路の冠水などは日常茶飯事である。インド東海岸や南部では毎年サイクロンが襲来し、大きな被害が出ている。また、2001年1月にはインド西部グジャラート州で大規模な地震が発生している。2001年、2002年、2004年とビハール州・西ベンガル州等で毎年のように洪水の被害も多発しており、2004年末のスマトラ沖大地震・インド洋津波の影響で特にアンダマン・ニコバル諸島で被害が大きく、15000人以上

が死亡した。

(2) 防災対策

災害時を想定し、米、ミネラルウォーター、缶詰、インスタント食品などの非常食や懐中電灯、マッチ、ろうそくなどを自宅に用意することが望ましい。

(3) 被災時の心得

生命の安全を第一に考え、常にひとつ先の手を打つよう心がけることが大切である。現地の責任者の判断に基づき、速やかに身軽に避難すること。また、事変や災害などの場合には、空路による早期国外脱出が最善ではあるが、ことが起こってから空路待避する場合、空港までの途中の道で砲撃に遭遇するといった危険も伴うので、状況がどの段階にあるかを常に見極めることが必要である。時には、安全な場所での待機ということもありうるので、2週間分ほどの食料および飲料水を備蓄するとよい。

12-4 緊急連絡先電話番号

- ・日本大使館 : 2687-6564/6581～3
- ・警察 : 100
- ・消防 : 101
- ・救急車 : 102(ただし、公立病院に運ばれる)

13. 社交



13-1 風俗習慣

インドでは親しくなった場合の接待は、自分の家に招待することが多い。風習、習慣については、宗教、地域などにより大幅に異なる。また、菜食主義者も多いので、招待する時は招待客に食事の制限について確認すること。

13-2 パーティーでの留意点

パーティーでは女性はサリー、パンジャブドレス、男性は背広、サファリスーツなどが一般的である。日本人の場合は、女性はワンピースかスーツ、男性は背広で十分である。

一般にパーティーの開始時間は19:30～20:00ころであり、それにとまって終わる時間も遅い。マナーなどは常識の範囲で判断すればよいが、会話については、宗教、カーストなどの話題は一般論を除いて避けたほうがよい。

13-3 来客時の留意点

公式のパーティーでは、配偶者同伴もよくある。子供の同伴は気楽なパーティーでは一般的であるが、フォーマルな場合は同伴しないことも多いので、場合によって判断するか、確認すること(招待状に誰が招待されているか明記されている。子供同伴の場合はMr. & Mrs. and Familyと明記されている)。

13-4 訪問時の留意点

特別に留意すべき点はなく、常識の範囲で判断すればよい。アポイントは特に必要ない。

13-5 禁止されている言動(タブー)

握手・受け渡しは左手を用いないほうが無難。

宗教的に牛は神聖な存在であるため、殺傷してはいけない。人により宗教的理由で食べられない食材があることを意識する必要がある。

13-6 日本人会

下記の日本人会がある。

・デリー日本人会

日本人会室 : B-7/2, Safdarjung Enclave

電話 : 2616-6427

会費 : 1人900ルピー(半年)

・バンガロール日本人会

URL : <http://indo.to/bangalore/>

会費 : 1人900ルピー(半年)

・ムンバイ日本人会

URL : <http://www.geocities.jp/sakurakaibom/index.html>

・マドラス日本人会

URL : <http://www.geocities.co.jp/SilkRoad-Oasis/5098/>

会費 : 1人1200ルピー(半年)

13-7 JICA帰国研修員同窓会

JICA帰国研修員同窓会がある。同窓会員はインド全体で約800人、うちデリー在住の同窓会員は3分の2程度である。

同窓会会長 : Dr.O.P.Dewal, JICA Alumni Association of India(JAAI)

13-8 現地の人々との交流

仕事上で親しくなったインド人から、親族の結婚式などに招かれることも多い。また、趣味や稽古の会で、現地の人々と交流の機会がある。

14. 教育



14-1 教育事情

(1) 一般事情

インドの教育制度は複雑であるが、基本的な構造は次のとおりである。

・初等教育(8年 : 5~13歳)

・小学校(クラスI~V : 5~10歳)

- ・中学校(クラスVI～VIII :11～13歳)
- ・中等教育(クラスIX～X :14～15歳)
- ・高等中等教育(クラスXIからXII :16～17歳)
- ・大学学部(3年間)

インドは、膨大な数の非識字者人口を抱える一方、数多くの優秀な人材を世界に輩出しており、高度な水準の教育機関も存在する。

(2) 日本人学校



1964年9月1日に、ニュー・デリー日本人小学校 (Japanese School, New Delhi) が開校し、1989年にニュー・デリー日本人学校と改名、91年8月5日に現校舎に移転した。同校の運営は、ニュー・デリー日本人学校理事会によって行われている。なお、日本人学校には小学校および中学校がある。

ニュー・デリー日本人学校への転入学の手続きは、在籍していた学校へ「ニュー・デリー日本人学校へ転出」と申し出て、必要な書類(在学証明書、指導要録の写し、健康診断票、歯の検査票)を保護者が直接持参して行き、必要書類を提出すると即日入学できる。また、教科書は海外子女教育振興財団に出向き、教科書給与証明書を提示して受け取る。

<ニュー・デリー日本人学校>

URL : <http://www.ndjs.org/>

<海外子女教育振興財団>

URL : <http://www.joes.or.jp/>

E-mail : service@joes.or.jp

受付時間 : 9:30～17:30(月～金曜日、祝日・年末年始を除く)

・東京

住所 : 〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-4 愛宕東洋ビル6階

TEL : 03-4330-1349 FAX : 03-4330-1355

・関西分室

住所 : 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-3-1-200 大阪駅前第一ビル2階

TEL : 06-6344-4318 FAX : 06-6344-4328

日本で用意すべき学用品は、次のとおりである。

筆箱、鉛筆(HBかB)、消しゴム、はさみ、下敷き、「クレパス」、絵の具セット、色鉛筆(12～16色)、のり、けん盤ハーモニカ、色紙、三角定規1組、なわとび用のなわ、縦笛(ソプラノ・リコーダー、アルト・リコーダー)、コンパス、カッターナイフ、切り出しナイフ、習字セット、そろばん(3～4年の3学期に使用)、分度器、彫刻刀(4本セット)、国語辞典、英和・和英辞典、裁縫道具(針、はさみ、白・黒糸、チャコ程度)など。

学用品以外に必要なものは次のとおり。

上履き外履き兼用の靴(運動靴)、通学カバンは自由(ランドセルは不要)、ステンレス水筒(毎日持参する。大きめのものがよい)、弁当箱(給食なし)、

体操着と体操帽および紅白のはちまき、水泳着と水泳帽およびゴーグル（水泳シーズンは4～9月）、絵の具、習字用の筆・半紙、各学年に応じた参考書、ノート類（購買部にもあるが、できるだけ余分に持参したほうがよい）、折り紙用の色紙など。

なお、通学用の服装は自由である。

新学期は日本と同様4月で、1学期が4～8月、2学期が9～12月、3学期が1～3月である。2006年度は、夏期休暇が5月26日～7月2日、秋期休暇が8月28日～9月3日、冬期休暇が12月22日～1月7日となっている。また、主な年間行事は、8月の七夕祭り、9月の水泳大会、10月の盆踊り大会、11月の運動会、1月のもちつき大会などである。

なお、通学用スクールバス（利用料金：月額4500ルピー）の乗降場所、時間および時間割を確認すること。

(3) 現地校、外国人学校

主な外国人学校は以下のとおり。



- ・The American Embassy School
- ・The British School
- ・The German School in New Delhi
- ・Ecole Francaise de Delhi

日本人学校に通学しない日本人子女のほとんどは、上記の American Embassy SchoolかBritish Schoolに通っている。前者の場合、幼稚園から高校3年生（Grade: 12）まであり、生徒数は約700人で、そのうちの約25%がアメリカ人である。残りの75%は、日本をはじめ50以上の国の子女である。アメリカ大使館の隣にあり、デリーのDiplomatic Communityの中心街にある。

入学試験は英語で行われるため、多少の英語力が必要となる。また、授業は英語で行われるので、英語圏以外の生徒にはEnglish as a Second Language (ESL)プログラムが用意されている。

8月中旬から12月下旬までが第1学期、1月上旬～5月下旬までが第2学期となっている。夏休みは5月下旬～8月上旬までである。

(4) 幼稚園

1995年度から日本人学校に幼稚園部が開設された。所在地および電話番号は、日本人学校と同様である。ニュー・デリー日本人学校附属幼稚園部の入園に関しては、定員（30人）に余裕があれば、随時入園できる。しかし、定員を超えた場合、その後の入園希望者は待機となる。保護者とともに来園し、幼稚園で手続きをした段階で初めて正式な入園または待機と認められる。予約による待機はできない。

このほかにThe American Embassy School のECEC (Early Childhood Education Centre : その年の9月1日までに3歳になる子供)、Kindergarten (その年の9月1日までに5歳になる子供)、The British School、German Schoolの幼稚園などもある。

また、現地の幼稚園は以下のとおりである。



- ・Magic Year
- ・Step by Step
- ・Little Senator's Nursery School

14-2 教育関係施設

(1) 図書館など

児童向け図書館としては以下のものがあるが、蔵書は英語、ヒンディー語ほかインドの地方言語の図書である。デリー日本人会室の図書室には、児童向けの日本語の図書が若干ある。



- ・Children's Book Trust
- ・National Book Trust
- ・デリー日本人会室の図書室

このほかにも移動図書館があるが、やはり英語またはヒンディーをはじめとする各種インド語であり、日本人の子女には向かない。

15. 家庭の使用者



15-1 一般事情

外国人の一般家庭で雇う使用者は、コック、運転手、ベアラー（家のなかの管理、雑務）、スイーパー（掃除人）、アヤ（子守）、ドビー（洗濯人）、マリー（庭師）、ハウスキーパー（家事一般）、チョッキダール（門番・ガードマン）などで、各家庭で必要に応じて雇用している。最近では、雇用関係の煩わしさを避けるために、コック兼ベアラー、スイーパー兼ベアラー、アヤ兼ドビーと兼務で雇う家庭が増えている。ドビー、マリーのほとんどは、数軒を掛けもちするパートであることが多い。

チョッキダールは、個人契約よりも会社契約による派遣が主である。また、自治会で巡回チョッキダールを雇っている地区では、1戸あたり50ルピー程度の負担となる。使用者を新規で雇用する場合には、試用期間を最低でも3カ月間設けているのがふつうである。その間に、使用者の能力と人柄を確かめ、最終的な決定は現地に滞在する日本人に相談して決めるのが望ましい。また、使用者を雇う場合には、使用者の顔写真、住所、本籍などを最寄りの警察署に届け、身元調査するよう、デリー警察は勧めている。また、トラブルを避けるためにも契約書を取り交わし、健康診断を受けさせるとよい。

15-2 運転手

(1) 雇用

運転手の雇用は、帰国する日本人からの紹介が最も望ましい。それが不可能な場合は、信頼できるインド人の紹介により雇用するとよい。一般家庭では、新聞広告などにより運転手を募集することはまずない。選考方法としては、人からの紹介ではない運転手は採用しないこと。また、若い人は運転が荒いこともある

ため、選考の対象から外すほうがよい。

賃金は、1カ月4000～6000ルピー程度である。勤務時間は7:00～18:00(19:00)が通常であるが、各家族の構成状況によって異なる。残業は1時間あたり20～30ルピーぐらいが目安となっている。

(2) 日常管理

毎日の走行距離を記録させ、雇用者がチェックすることが望ましい。また、その車の燃費をきちんとチェックし、燃料を管理する必要がある。また、スピードの出しすぎや割り込みなどを頻繁に行うようであれば、そのつど注意し、安全運転を徹底させることが必要である。

運転手は車中で待機することも仕事なので、待機中に勝手な行動をしないよう習慣づけることも必要である。また、サンダルでの運転は認めないほうが安全である。

(3) 教育指導

注意すべき事柄があれば、相手に遠慮せずに、気がついた時点で的確に伝えることが肝要である。

(4) その他の留意点

ガソリンを転売するケースが多々あるので、使用量に注意し、ガソリンスタンド(Petrol Station)には、できる限り同行して給油量を確認することが望ましい。

15-3 家政婦／夫

(1) 仕事の種類と人数

「15-1 一般事情」の項を参照のこと。

(2) 雇用

雇用方法は運転手と同じく、日本人から、あるいは信用できるインド人から紹介してもらうこと。新しく住居を決めると自薦、他薦のハウスキーパー、スイーパーが訪問してくるが、雇用しないほうがよい。これらの人々は、外国人の推薦状を持参してきたりするが、自作の可能性もあり信用できない。特に、家のなかで仕事に従事する使用人の採用には十分に注意し、滞在の長い日本人の意見を求めてから決定するほうがよい。

<1カ月の賃金の目安> (2005年5月の日本人対象のアンケートによる)

コック : 3500～6000ルピー

ハウスキーパー : 2000～5000ルピー

マリー : 500～1000ルピー

また、残業手当は1時間あたり20～30ルピーが標準である。使用人を休日に出勤させる場合は、休日出勤手当として100～200ルピー程度支給している。ボーナスは、1年分の就労に対して1カ月分の賃金を支給するのが基準となっている。本採用後1年を経過していない場合には、働いた月数に応じて支給する家庭が多い。ボーナスは、Diwali(富と幸運の女神ラクシュミーの祭り。また、10月下

旬のラマ王子の帰還伝説を祝う光の祭り)、Holi(3月の春の到来を祝う祭り)、クリスマスなどの特定の祭日に、まとめて1か月分を支給、あるいは2回に分けて支給するのが一般である。

昇給は、1年ごとに5～10%アップという方法が一般である。また、使用人を後任者が引き継ぐ場合、帰国時にその月の給与と月給1か月分の退職金を支払う。

使用人を採用する際、特にコック、アヤ(子守)については健康診断を受けてもらったほうがよい(費用は雇用者の負担)。休日は週1回、昼休みは1～2時間程度が一般的である。


(3) 日常管理

給与の前貸しは、原則的には認めないほうがよい。万が一、前貸しする場合は、最高でも1か月分とするのが無難である。使用人の服装については、常に清潔に保たせるようにすること。また、使用人に対してユニフォームを年に1～2回支給する場合もあるが、ユニフォームの支給に要する金額は枚数に関係なく、最高でも1か月分の給与以下となっている。

15-4 庭師、ガードマン

マリー(庭師)は、数軒共同で雇用しているケースが多い。「種を買ってくる」など理由をつけては代金を持ち逃げするケースがあるため、多額の金は渡さないよう十分注意を払うこと。チョッキダール(門番・ガードマン)は、個人を雇用するのではなく会社と契約するほうが望ましい。

チョッキダールを派遣する主な会社は以下のとおりである(詳細はイエローページを参照)。

-  Yellow Page ・Group 4 Securitas Guarding Ltd.(グループ4)
- ・Pawar Enterprises(パワール・エンタープライシス)

16. メディア




16-1 新聞、雑誌

(1) 現地発行の日刊紙

インドには多くの英字新聞がある。代表的な新聞は「Times of India」、 「Hindustan Times」などで、1部1～2.5ルピーである。家庭への宅配は最寄りの新聞配達サービスに申し込み、購読料(40～70ルピー)を月ごとに集金人に支払う。

(2) 日本の日刊紙

 Yellow Page 日本の新聞はOCS(詳細はイエローページを参照)により送付され、1日程度の遅れで到着する。支払いは、日本の口座から引き落とすほうが確実であり、トラブルもない。

(3) 欧米紙／誌

OCSを通じて購読可能。また、一部の欧米雑誌は、カーン・マーケットなど主

要マーケットの書店、雑誌スタンドでも販売されている。

(4) 日本の雑誌、書籍

OCSなどを通じて購入する。現地の書店で直接購入することはできない。

16-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

National Channel(1566kHz)やDelhi B English Channel(666kHz)などがある。音楽主体のFM(102.6MHz)もある。

(2) NHKワールド・ラジオ日本(ラジオジャパン)

国際放送対応のラジオがあれば聴取可能である。

<ラジオジャパン問い合わせ先>

NHK国際放送局企画編成部

所在地 : 〒150-8001 東京都渋谷区神南2-2-1

電話 : 海外から : +81-3-3465-1111(平日/日本時間10:00~19:00)

日本国内から : 0570-066066(NHK視聴者コールセンター/24時間受付)

E-mail : nhkworld@nhk.jp

<周波数表、番組表の入手>

URL : http://www.nhk.or.jp/nhkworld/japanese/radioguide_j.html

(周波数表、番組表確認)

FAX : +81-3-5454-0888 情報番号 : 260

(日本語放送の周波数表・番組表FAXサービス)

郵送 : 上記NHK国際放送局企画編成部に請求する。(無料)

(3) 聴取可能なその他の外国放送

BBCなどがある。

16-3 テレビ

(1) 地上波放送局

国営放送(ドウルダッシャナー : Doordaarshan)がある。デリーでは英語およびヒンディー語による放送だが、地方により異なる。

(2) 衛星放送、ケーブルテレビなど

衛星放送があり、BBC、CNN、映画専用チャンネル、スポーツチャンネルなどが受信できる。衛星放送の受信については、最寄りの衛星放送受信店に申し込み、毎月200ルピー程度を集金人に支払う。

NHKワールドTV(NHKニュース、情報番組、文字によるニュース、世界の天気予報などNHKが行っている国際放送)は、デリー市内の一部地域のケーブルテレビなどでは受信可能である。また、他の地域でも、専用の大型受信アンテナとデジタル衛星チューナーを備えれば、無料で受信できる。アンテナおよびチューナーは現地で入手可能である。

ドラマなど娯楽番組も含まれるNHKワールド・プレミアムの放送も視聴できる。

代理店は、In Cablenet(電話 :022-2824-8300/8304/8308)である。

<NHKワールドTV問い合わせ先>

NHK国際放送局企画編成部

所在地 :〒150-8001 東京都渋谷区神南2-2-1

電話 :海外から :+81-3-3465-1111(平日/日本時間10:00~19:00)

日本国内から :0570-066066(NHK視聴者コールセンター/24時間受付)

E-mail :nhkworld@nhk.jp

<番組表の入手>

URL :http://www.nhk.or.jp/nhkworld/(週間番組表確認)

FAX :+81-3-5454-0888 情報番号 :258(週間番組表FAXサービス)

<NHKワールド・プレミアム問い合わせ先>

(株)NHK情報ネットワーク「カスタマーセンター」

所在地 :〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町7-13

電話 :+81-3-5458-6601

E-mail :premium@nhk-jn.co.jp

<番組表の入手>

URL :http://www.nhk-jn.co.jp/wp/ind_day1_a.htm(週間番組表確認)

FAX :+81-3-5454-0888 情報番号 :259(週間番組表FAXサービス)

(3)テレビ受信

受信方式はPAL方式で、日本からテレビ受像機を持ち込む場合は、マルチシステムの受像機を購入する。日本製のビデオなどを見るには便利である。マルチシステムの受像機の現地購入も可能である。

17. スポーツ、 趣味、 語学学習



Yellow Page

17-1 スポーツ

(1)ゴルフ


主なゴルフ場として、次のものがある(詳細はイエローページを参照)。

- ・Delhi Golf Club(デリー・ゴルフクラブ)
- ・DLF Golf Club(DLFゴルフクラブ)
- ・Classic Golf Resort(クラシック・ゴルフリゾート)
- ・Golden Green Golf Club(ゴールデン・グリーンゴルフクラブ)
- ・Jaypee Golf Club(ジェイピー・ゴルフクラブ)
- ・Qutab Public Golf Course(クトゥブ・パブリックゴルフコース)

(2)テニス、フィットネス

日本人学校にはプールがある(日本人会水泳同好会会員と日本人学校父兄が利用可能)。ホテルや会員制クラブなどにもテニスコートやプール、その他のスポーツ施設がある。また、DDA Sports Complexなどのスポーツ施設でも、水泳、バドミントン、テニス、ローラースケートなどができる。

<テニス>

-  Yellow Page ・Delhi Lawn Tennis Association (DLTA) (デリー・テニス協会)
- ・Ishwar Farm (イシュワル・ファーム)
- ・The Blue Greens (ブルー・グリーンズ)

<水泳>

- ・日本人学校屋内プール(日本人会水泳同好会会員もしくは学校父兄のみ利用可)


<その他>

- ・DDA Sports Complex (DDAスポーツ・コンプレックス)

このほか、ゴルフ、テニスなどは日本人会の同好会がある。また、ハイアット・リージェンシーホテル、日航ホテルなどの会員制クラブもある。


(3) その他のスポーツ

日本人に人気のあるスポーツとしては、上記のほかにボウリングがある。主なボウリング場は以下のとおり。

-  Yellow Page ・Future Bowl (フューチャー・ボウル)
- ・Bowling Alley (ボウリング・アレー)
- ・First Bowl 32nd Milestone (マイルストーン)

17-2 趣味


日本人に人気のある趣味として、コーラス、ピアノやバイオリンなどの楽器、茶道、手芸、ブリッジ(トランプ)やマージャン、その他インド舞踊やバレエなどがある。主な教室は以下のとおり。

-  Yellow Page ・Sangeet Shyamala (サンギート・シャマラ)
- ・The American Embassy School Adult Education (アメリカンスクール成人教育)
- ・Delhi School of Music (デリー・スクール・オブ・ミュージック)
- ・Sri Aurobindo Ashram (アルビンドー・アシュラム)

17-3 語学学習

(1) 語学学習施設

語学学習施設として、次のようなものがある。

-  Yellow Page ・The American Embassy School Adult Education (アメリカンスクール成人教育)
- ・English Language Teaching Centre-The British Council (ブリティッシュ・カウンシル英語センター)
- ・Alliance Francaise (アリアンス・フランセーズ)

(2) 家庭教師

英語、ヒンディー語の家庭教師はたくさんいる。しかし、質にバラつきがあるた

め、現地在住の日本人に相談し、指導方針などを確認してから決めるとよい。特に、児童、子供向けの英語の家庭教師は、American Embassy Schoolで推薦してもらおうと間違いはない。

18. 観光



18-1 地方旅行の留意点

旅行の際は、航空券、列車の切符、ホテルなどすべて早めに予約し、かつ出発直前に予約の再確認を必ず行うこと。飛行機の場合は、オーバーブッキングがよくあるので、空港には遅くとも出発の1時間前に到着するようにし、早めに搭乗手続きを済ませたほうがよい。行き先によっては、搭乗手続きのあとに荷物チェックとなり、チェックをしていない荷物は機内に積み込んでくれないことがあるので、注意が必要である。

その他の注意すべき点としては、貴重品は手に持つべきである。ただし、ポシェットなどにすべての貴重品を入れることは危険であり、分散して身につけたほうがよい。

また、盗難が多いので現金は避け、トラベラーズチェックを利用したほうが安全である。クレジットカードも通用するが、カードを悪用されたケースがあるので、利用明細書の確認が必要である。

また、治安上の理由から、外国人の旅行が制限されている地域や許可証が必要な場所があり、注意が必要である。

外務省「海外安全ホームページ」(<http://www.pubanzen.mofa.go.jp>)などを参照のこと。

18-2 主要観光地・保養地

インドは古い歴史があり、国土も広いので観光地は数多くある。しかし、飛行機や列車などの遅延も多いので、時間に余裕を見ながら慎重に旅行計画を立てる必要がある。また、詳しい情報などは市販の観光ガイドブックを参照し、身近に経験者がいれば、アドバイスしてもらおうのがよい方法である。

主な観光地は次のとおりである。

<デリー市内>

・Qutab Minar(クトゥブ・ミナール)

デリーの南郊外にそびえる高さ72.55mの塔(ミナール)。12世紀後半、奴隷王朝のスルタン、クトゥブディーン・アイバクが、デリーにあった最後のヒンズー王朝を打倒し、ムスリム支配者として、初めて壮大な宮廷を営んだ。それらのうち、クトゥブ・ミナールは、ヒンズー教徒に対する勝利を記念して、1193年に建設された。

現在残っている塔は5階からなり、1～3階部分は赤砂岩、4～5階部分は大理石と砂岩で造られている。クトゥブディーン時代に造られたのは、1階部分だけで、その上は彼の後継者たちが増築、完成させたものである。1803年の地震により、

最上部の円屋根が崩れたが、1829年に修復された。

・Lal Qila (ラール・キラ／Red Fort)

ラール・キラは「赤い砦」という意味であり、赤い砂岩の大城壁で囲まれているのでこのような名前がついた。1648年、アグラのタージ・マハルを築いたムガル王朝5代目のシャー・ジャハン王は、都をアグラから新都シャージャハナ・バード(シャー・ジャハン王の町、現在のオールド・デリー)に移したが、ラール・キラは、新都のなかの王城として8年をかけて完成された。城門が2つあり、南側がデリー門、正面がラホール門と呼ばれている。観光客はラホール門から入るが、内部はアーケードがあり現在は土産物店となっている。奥には3階建ての内門、Naubhat Khana (ナウバド・カーナ) がある。この門を入ると庭を隔てDiwan-e-Am (デワン・エ・アム)／Hall of Public Audienceがあり、これをさらに進むとDiwan-i-Khas (ディワニ・カズ)／Hall of Private Audienceがある。そのほか、城内には、真珠のモスクと呼ばれているMoti Masjid (モティ・マスジット)／Pearl Mosque、浴室として使われたHammam (ハマーム)／Bathing Areaなどの建物がある。

そのほか、ラール・キラの向かい側にあるインド最大の回教寺院Jama Masjid (ジャマ・マスジット)、アグラのタージ・マハルの原形といわれるムガル王朝2代目の王フマユーンとその妃の墓であるHumayun's Tomb (フマユーン廟)などがある。

<デリー近郊>

ウッタル・プラデシュ州のアグラには世界5大観光名所の1つであるタージ・マハルがある。また、ラジャスタン州にはラージ・プート族ゆかりの地が点在し、マハラジャの城、宮殿などが数多く残されている(ジャイプール、ウダイプール、ジョドプール、ピカネール、ジャイサルメールなど)。デリーを北上すると、避暑地で有名なマスーリ、シムラなどがある。

18-3 旅行代理店

デリー市では、特にコンノートプレイス、ニュー・デリー駅周辺のパハルガンジ地区のメインバザール周辺、航空会社や政府観光局、駅の予約オフィス周辺では一見親切そうな悪質旅行業者が、外国人客目当てに声をかけてくることが多い。

現地での国内便航空券、列車券などの購入は、JICA事務所が利用している信頼のおける以下の旅行代理店通じて行うか、または航空会社、駅での直接の予約・購入を勧める。



- ・Anand Travel Related Service
- ・Indo Japan Air Service Pvt. Ltd. (IJAS)

19. 私財の輸送、 引き取り、購入



19-1 家財道具

(1) 輸送会社

「11-3(3)家財道具の処分」の項を参照。

(2) 輸入手続き

航空輸送の場合は、インディラ・ガンジー国際空港か任地の最寄りの国際空港へ送る。

(3) 輸入貨物の受け取り港

海送の場合は、ムンバイあるいはコルカタとなる。海送の場合、日本積み出しから引き取りまで2~3カ月ぐらいかかる。

19-2 自動車

(1) 一般状況

1991年の新経済政策開始後、外国自動車資本の進出が著しく、現地生産車の性能も上がって種類も増えており、今後さらに新車種が市場に出回ることが予測される。メンテナンスやスペアパーツ入手を考えると、現地生産車の購入が望ましい。車を輸入する場合には、100%の輸入関税がかかる。中古車の輸入は規制が多く、ほとんど行われていない。

(2) 輸入手続き

発注後、インボイスを取り付け、インポートライセンスを取得して支払いを行う。輸入車の場合は関税を支払う必要があるため(民間企業の場合)、関税を支払ってから車両を引き取ることになる。

(3) 現地での購入

現在、市場に出回っている現地生産主要乗用車、および外国資本車は、次のとおりである。

- ・スズキ
- ・現代
- ・GM
- ・三菱
- ・ホンダ
- ・フォード
- ・トヨタ
- ・TATA
- ・メルセデス・ベンツ

(4) 自動車登録

現地購入車の場合も輸入車の場合も、自動車販売会社に依頼することになる。ただし、自分でデリー市の交通当局(Transport Authority)に出向き、登録を行うことも可能である。

(5) 免許証取得

日本で取得した国際免許はインドで使用可能。

(6) 保険、税金

保険料は高いが、事故が多いため加入は必須である。主な保険会社は次のとおりである。



- ・The New Delhi Assurance Company Ltd.
- ・The Oriental Insurance Company Ltd.
- ・Bajaj Allianz General Insurance Co.,Ltd.
- ・The Cholamandalam MS General Insurance Co., Ltd.(三井住友海上系)
- ・IFFCO-TOKIO General insurance Co. Ltd.(東京海上日動)

車検制度は商業車のみにも適用される(毎年車検を行うことが求められる)。一般車の場合、車検はない。

20. 地方都市



<ムンバイ(旧ボンベイ)>

ムンバイ市は、アラビア海に臨むインド西海岸に位置し、マハラシュトラ州の州都である。1991年の調査によると、ムンバイの人口は約1260万人で、インド最大の都市である。ムンバイには、インドの中央銀行であるRBI(インド準備銀行)、IDBI(インド工業開発銀行)、ICICI(インド工業投資公社)などの金融機関の本部があり、また、インド最大の証券取引所があるなど、インドの商業・経済の中心地である。

<コルカタ(旧カルカッタ)>

西ベンガル州の州都コルカタは、インド亜大陸の東部、ベンガル湾口近くのカンジス河口デルタ地帯に位置し、インドの東玄関口として、西のムンバイと並ぶ大都市である。1991年の国勢調査によれば、コルカタの人口(ハウラーなどの隣接諸地区を含む)は1092万人で、ムンバイに次ぐ第2の都市である。17世紀にイギリスが東インド会社商館を設置して以来、1911年にデリーへ首都が移されるまで、英領インドの首都として発展を遂げた。

<チェンナイ(旧マドラス)>

タミル・ナドゥ州の州都チェンナイは、ベンガル湾に面する港町で南インド最大の都市である。人口は約536万人(1991年国勢調査)。インド4大都市(デリー、ムンバイ、コルカタおよびチェンナイ)のなかでも西洋化されていない保守的な都市といわれている。人種は、北インドのアーリア系に対し、インダス文明を築いたといわれているドラヴィダ系で、言語はタミル語(および英語)が使用される。反ヒンディー語傾向が強いので、ヒンディー語はまず通じない。

<ベンガローア(旧バンガロール)>

カルナタカ州の州都ベンガローアは、人口約649万人(1991年国勢調査)の南インドで最も西洋化された都市である。標高が900m以上のため、一年を通して平均気温が摂氏20~27度以下である。他の都市に比べ快適な気候であるため、イギリス人の居留地があった。近年はコンピューター産業が発展し、インドのシリコンバレーと呼ばれている。国立の研究機関(科学研究所、宇宙研究所など)も多く存在する。

イエローページ

* 特に記載のない限り、JICA事務所のあるデリーの情報が中心になっています。

1. JICA 事務所

所在地	3A (3 rd Floor), Lotus Towers, Community Centre, New Friends colony, New Delhi-110025, India
TEL/FAX	TEL: +91(インド国番号)-11-4167-2580~5 FAX: +91-11-4167-2586
URL/E-mail	URL: http://www.jica.go.jp

2. 日本大使館

所在地	50-G, Chanakvapuri, New Delhi
TEL/FAX	TEL: +91-11-2687-6564/6581~3 FAX: +91-11-2688-5587

3. 緊急連絡先電話番号

日本大使館	TEL: 2687-6564/6581~3
警察	TEL: 100
消防	TEL: 101
救急車	TEL: 102(ただし、公立病院に運ばれる)

4. ホテル

* 通常、宿泊料金にはHotel Expenditure Tax(デリーでは12.5%)が加算され、食事には8%のSales Taxが加算される(料金は、2003年4月現在のレート)。なお、下記のホテルはすべて主要なクレジットカード(VISA, MasterCard, American Express, Diners)が利用可能。

<高級ホテル>

■ The Metropolitan Hotel Nikko New Delhi(日航ホテル)

Banla Sahib Road
TEL: 2334-2000 FAX: 5250-0300
URL: http://www.nikkohotels.com E-mail: nikko@hotelnikkodelhi.com
料金(シングル/ダブル): 16000/16000 ルピー(+ホテル税 12.5%)

■ The Oberoi(オベロイ)

Dr. Zakir Hussain Maro
TEL: 2436-3030 FAX: 2436-0484
URL: http://www.oberoihotels.com
料金(シングル/ダブル): 350/375 米ドル(+ホテル税 12.5%)

■ Le Meridien(メリディアン)

Windsor Place, Jan Path
TEL: 2371-0101 FAX: 2371-4545
URL: http://www.lemeridien-newdelhi.com E-mail: info@lemeridien-newdelhi.com , meridien@vsnl.com
料金(シングル/ダブル): 14000/15000 ルピー(+ホテル税 12.5%)

■ The Park(パーク)

Parliament Street
TEL: 2374-3000 FAX: 2374-4000
URL: http://www.theparkhotels.com E-mail: resv.del@theparkhotels.com
料金(シングル/ダブル): 12000/14000 ルピー(+ホテル税 12.5%)

■ Maurya Sheraton(モーリア・シェラトン)

Sardar Patel Maro, Diplomatic Enclave
TEL: 2611-2233 FAX: 2611-3333
URL: http://www.nivalink.com/maurya/ E-mail: itmauryasheraton@welcomegroup.com
料金(シングル/ダブル): 400/425 米ドル(+ホテル税 12.5%)

■ Taj Palace(タージ・パレス)

2 Sardar Patel Maro, Diplomatic Enclave
TEL: 2611-0202 FAX: 2611-0808
URL: http://www.tajhotels.com E-mail: tpbhc.del@tajhotels.com
料金(シングル/ダブル): 325/350 米ドル(+ホテル税 12.5%)

■ Taj Mahar(タージ・マハル)

Mansingh Road
TEL: 2302-6162 FAX: 2302-6070
URL: http://www.tajhotels.com E-mail: tmhbc.del@tajhotels.com
料金(シングル/ダブル): 375/400 米ドル(+ホテル税 12.5%)

■ Hyatt Regency(ハイアット・リージェンシー)

Bhikaji Cama Place, Ring Road
TEL: 2679-1234 FAX: 2679-1122
URL: http://www.hyatt.com E-mail: hrdelhi@hyattintl.com
料金(シングル/ダブル): 該当情報なし。

-
- Radisson Hotel(ラディソン)
 National Highway No.8
 TEL:2677-9191 FAX:2677-9090
 URL: <http://www.radisson.com/>(Radisson Hotel & Resorts ホームページ) E-mail: businesscentre@radissondelhi.com
 料金(シングル/ダブル):275/290 米ドル(+ホテル税 12.5%)
-
- Imperial Hotel(インペリアル・ホテル)
 Janpath, New Delhi-110001
 TEL: 2334-1234 FAX: 2334-2255
 URL: <http://www.theimperialindia.com/home.htm> E-mail: luxury@theimperialindia.com
 料金(シングル/ダブル):400/425 米ドル(+ホテル税 12.5%)
-
- Shangri-la Hotel(シャングリラ・ホテル)
 19-Ashok Road, New Delhi-110001
 TEL: 4119-1919 FAX:4119-1988
 URL: <http://www.shangri-la.com/newdelhi/shangri-la/en/index.aspx> E-mail: sind@shangri-la.com
 料金(シングル/ダブル):370/390 米ドル、(+ホテル税 12.5%)
-

<中級以下ホテル>

-
- Vasant Continental(ワサント・コンチネンタル)
 Basant Lok, Vasant Vihar
 TEL:2614-8800 FAX:2614-8900
 URL: <http://www.jaypeehotels.com> E-mail: reservations.hvc@jaypeehotels.com
 料金(シングル/ダブル):175/200 米ドル(+ホテル税 12.5%)
-
- Crowne Plaza Surya(クラウンプラザ・スリヤ)
 New Friends Colony, New Delhi-110065
 TEL: 2683-5070 FAX: 2683-7758
 URL: www.crowneplaza.com E-mail: crowneplaza@crowneplazadelhi.com
 料金(シングル/ダブル):200/200 米ドル(+ホテル税 12.5%)
-
- Diplomat(ディプロマット)
 9 Sadar Patel Marg
 TEL:2301-0204 FAX:2301-8605
 E-mail: diplomat@nda.vsnl.net.in
 料金(シングル/ダブル):7000/8000 ルピー(+ホテル税 12.5%)
-
- Samrat(サムラート)
 20-B, Chanakvapuri, New Delhi-110021
 TEL: 2611-0606 FAX: 2467-9056
 URL: www.theashokgroup.com/samrat_hotels.htmlE-mail:
 料金(シングル/ダブル):6000/7000 ルピー、(+ホテル税 12.5%)
-
- J's Inn(ジェイズイン)
 B-14, Vasant Marg, Vasant Vihar, New Delhi-110057
 TEL: 2614-4500 FAX: 2614-4123
 URL: <http://www.jsinn.com> E-mail: info@jsinn.com
 料金(シングル/ダブル):3713/4641 ルピー(+ホテル税 12.5%)
-
- Centrum(セントラム)
 D-984, New Friends Colony, New Delhi-110025
 TEL: 4162-9501 FAX: 4162-9506
 URL: www.thecentrumhotel.com E-mail: hotelcentrum@vsnl.net
 料金(シングル/ダブル):2000/2400 米ドル(+ホテル税 12.5%)
-

5.不動産会社

-
- Ebel Services Pvt. Ltd.
 TEL:2614-0012/8124 FAX:2614-6124
 代表:Mr. Raai Kanwar
-
- Guptasons TEL:2618-7344, 2610-5103 FAX:2618-7344
 代表:Mr. Rakesh Gupta
-

6.美容院、理髪店

<美容院>

-
- Lakme Beauty Salon
 Ashok Hotel 内
 TEL:2611-0101
-
- Le Meridien Hotel Beauty Palor
 Le Meridien Hotel 内
 TEL:2371-0101
-
- Madonna 45 Basant Lok Market, Vasant Vihar
 TEL:2614-5704
-

■Affinity Salon

24 Community Centre, Basant Lok, Vasant Vihar

TEL: 5166-9596

M-64, M-Block, GK-II

TEL: 2921-6592

<理髪店>

■Oxford Cut 48/5, Basant Lok Market, Vasant Vihar

TEL: 2614-9212/1762

■Verma's 3 Defence Colony Market

TEL: 5155-1291

7. レストラン

<日本料理>

■タムラ D-8, D-Block Market, Vasant Vihar

TEL: 2615-4082

■サクラ Bandla Sahib Road (日航ホテル内)

TEL: 2374-7873

■エノキ Vasant Kuni-Phase 2, Nelson Mandela Road (グラント・ハイアットホテル内)

TEL: 2621-1234

<鉄板焼>

■TKS(ティーケース)

Bhikai Cama Place, Ring Road (ハイアット・リージェンシーホテル内)

TEL: 2679-1234

<インド料理>

■Bukhara (ブカラ)

Sadar Patel Marg (モーリア・シェラトンホテル内)

TEL: 2611-2233

タンドール料理

■Khandahar (カンダハール)

Dr. Zakir Hussain Marg (オペロイホテル内)

TEL: 2436-3030

タンドール料理

■Haveli (ハベリ)

Mansingh Road (タージ・マハールホテル内)

TEL: 2302-6162

ムガール料理。インドダンスあり。

■Saagar Ratna (サガール・ラトナ)

50-B, Chanakypuri (Ashok Hotel 内)

TEL: 2611-0101

南インド・ベジタリアン料理

■Saravana Bhavan (サラバナ・ババン)

46, Janpath, Connaught Place

TEL: 2331-7755

南インド・ベジタリアン料理

■Karim (カリーム)

Gali Kababivan Matia Mahal (ジャママスジットのそば)

TEL: 2326-9880

ムガール料理の老舗

<中国料理>

■Oriental Bloom (オリエンタル・ブルーム)

Khel Gaon Marg (Ansal Plaza 内 3F)

TEL: 2626-5444

■Taipan (タイパン)

Dr. Zakir Hussain Marg (オペロイホテル内)

TEL: 2436-3030

■Mainland China (メインランド・チャイナ)

Plot No. 4, Local Shopping Centre, Masid Moth, GK-II

TEL: 2922-2123

■Nanjing (南京酒家)

C6, Opposite Delhi Public School, Vasant Kuni

TEL: 2613-8936

■Golden Phoenix(ゴールデン・フェニックス)
Windsor Place, Jan Path(メリディアンホテル内)
TEL:2371-0101

■House of Ming(ハウス・オブ・ミン)
No.1, Man Singh Road(タージ・マハルホテル内)
TEL:2301-6162

■Empress of China(エンプレス・オブ・チャイナ)
Nehru Place(パーク・ロイヤルホテル内)
TEL:2622-3344

■Fujiya(ふじや)12/48 Malcha Marg
TEL:2687-6059

■Akasaka(アカサカ)
28, Defence Colony Market
TEL: 2433-3821

<イタリア料理>

■La Piazza(ラ・ピアザ)
Bhikai Cama Place, Ring Road(ハイアット・リージェンシーホテル内)
TEL:2679-1234

■Ego(エゴ) 4 Community Centre, New Friends Colony
TEL:2631-9107

■Flavor(フレイバー)
52C Moolchand Flavour Bank Complex, Defence Colony
TEL:2464-5644

■Azzuro(アズーロ)
3, Community Centre, Saket
TEL: 4166-4274

■Diva(ディーヴァ)
M-8, GK-II, M-Block Market
TEL: 2921-5673

■Italic(イタリック)
C-25, C-Block, Vasant Vihar
TEL: 4166-3055

<フランス料理>

■Longchamp(ロンシャン)
No.1, Man Singh Road(タージ・マハルホテル内)
TEL:2301-6162

■Orient Express(オリエント・エクスプレス)
2, Sardar Patel Marg(タージ・パレスホテル内)
TEL:2611-0202

<その他の西洋料理>

■Ten(テン) 10 Sansad Marg(YWCA インターナショナル・ゲストハウス内)
TEL:2374-8026/8027
コンチネンタル、イタリアン、インド料理など

■TGI's Friday(ティージーアイズ・フライデー)
62, Basant Lok
TEL:2614-9064
コンノートプレイスFブロックにもある。

<タイ料理>

■Bangkok(バン・コック)
C49-50 Shopping Complex, Defence Colony
TEL: 4155-0233

■Lee's Garden(リーズ・ガーデン)
M-61, M Block Market GK-I
TEL: 2923-2519

■Ego Thai(エゴ・タイ)
53, Community Centre, New Friends Colony
TEL: 2633-1181

<韓国料理>

■秘苑(ビー・フォン)
F25/A Hauz Khas Enclave
TEL: 2653-7667

■Sun & Moon(サン・アンド・ムーン)

1F C7/3 Vasant Vihar

TEL: 5564-6042

<ファーストフード>

■Domino's(ドミノス)

Greater Kailash M Block Market, Connaught Place 他

デリバリーサービスあり

■Pizza Hut(ピザ・ハット)

Greater kailash M Block Market, Connaught Place 他

■Windy's(ウインピース)

Greater kailash M Block Market, Connaught Place 他

ハンバーガーなど

■McDonald's

Vasant Lok Vasant Vihar, Green Park Market, Connaught Place 他

■Nirula's(ニルラス)

Vasant Lok Vasant Vihar, Defence Colony Fry Over Market 他

ピザ、ハンバーガーなど

■Subway(サブウェイ)

Saket, Connaught Place 他

サンドイッチ

<カフェ、喫茶店など>

■Balista(バリスタ)

Khan Market など主要マーケットにある。

コーヒーなど飲み物およびサンドイッチなど

■Fabcafe(ファブカフェ)

9(2F), Khan Market

サンドイッチ、パスタなど

■Café Turtle(カフェ・タートル)

5-B(2F), Khan Market

TEL: 2465-5641

軽食(ベジタリアン)

■Café Coffee Day(カフェ・コーヒー・デイ)

主要マーケットにある。

コーヒーなどの飲み物およびパンなど

8.食料品の入手先

<市場>

■I.N.A. Market(アイ・エヌ・エイ・マーケット)

I.N.A. フライオーバー近く

しょうゆ、外国製ジャム、外国製マヨネーズ、缶詰、パスタ類、その他、野菜、果物、鶏肉、マトン、魚類などが豊富。

■Saroini Naqar Market(サロジニ・ナガール・マーケット)

Saroini Naqar

野菜、果物など

■Khan Market(カーン・マーケット)

Khan Market

野菜、果物、鶏肉、マトン、外国製缶詰、ベーコン、ハムなど。

■Defence Colony Market(ディフェンス・コロニー・マーケット)

Defence Colony

野菜、果物、鶏肉、マトンなど

<スーパーマーケット>

■Modern Basar(モダン・バサール)

Vasant Lok マーケット内

しょうゆ、缶詰、プータン米が購入可能

■Le Mache(ル・マルシェ)

58 Basant Lok, Vasant Vihar

TEL: 5166-9111

■Morning Store(モーニング・ストア)

Greater Kailash Par IM Block マーケット内

しょうゆ、外国製食品の入手が可能

■Taiga India (大河インディア)

A1/40, Panchsheel Enclave
 TEL: 2601-3398
 火曜、日曜は 15:00 まで閉店
 日本からの生鮮品などが入手可能

■Yamato-ya (大和屋)

B6/9, Local Commercial Complex, Safdarjung Enclave
 TEL: 5165-0164~5
 10:00~19:30(年中無休)
 日本式コンビニ(日本製食料品)

9.デパート

■Ansal Plaza (アンサル・プラザ)

Khel Gaon Market
 食器、調理器具、化粧品、衣料品、宝石など。食器、調理器具は、同デパート内の Shoppers Stop(ショッピング・ストップ)という店で購入できる。

■Ebony (エボニー)

South Extension Part II
 食器、調理器具、家電その他衣料品など

■Big Joe (ビッグ・ジョー)

South Extension Part II
 TEL: 2625-4401
 食器、調理器具、家電その他衣料品など

10.金融機関

■三菱東京UFJ銀行

Jeevan Vihar, 3, Parliament Street
 TEL: 5100-3456/4567

11.レンタカー会社

■Ananda Travel Related Services

92, LGF World Trade Centre, Barakhamba Lane, New Delhi-110001
 TEL: 2341-4186/2721 FAX: 2341-4186
 中型セダン(運転手、ガソリン代込み)で 1500 ルピー(約 4000 円)程度

■ORIX Auto and Business Solutions Ltd

31-33, Central Market, West avenue road, Punjabi Bagh (west) New Delhi-110026
 TEL: 2542-6950~54

12.自動車修理工場

■Lakozy Motors (トヨタ車の場合)

65, Okhla Industrial Estate, Phase III
 TEL: 2691-1226, 2632-4743/4714 FAX: 2692-9101
 E-mail: lakozy.toyota@gems.vsnl.net.in

■Maruti Service Station (Maruti-Udyog 社の車の場合)

C-119, Naraina Industrial Area, Phase I 他、多数
 TEL: 2579-9780

■MB Motors

33, Central Market, Kidwai Nagar, New Delhi

TEL: 2461-6261

13.国際宅配サービス

■OCS

M-24, Commercial Complex, Greater Kailash II
 TEL: 2623-8295
 E-mail: ocsdelhi@nda.vsnl.net.in
 日本までの料金(目安): 1000 ルピー/kg

14.コンピューター販売・修理会社

■RSG Infotech (P) LTD (RSG インフォテック)

14/10, (Basement), Kalkaji, (near Deshbandhu College), New Delhi
 Tel. 2628-6006~8
 コンピューターはアップルを含めたすべての機種を扱っている。ただし、日本語ソフトは入手不可。修理も行っている。

■Fujisawa total solutions (日本人経営、日本語対応可能)

11/68, Vikram Vihar, Lajpat Nagar-IV, New Delhi
 T TEL: 0120-2455560 E-mail: fst1@del3.vsnl.net.in

■Tata Nova(タタ・ノバ)

TEL:2614-7339

日本語の OS・アプリケーションソフトがインストールされた PC も修理できる。

15.家財道具の買い取り・運送

<家財道具買い取り会社>

■Diplomate Services

179 D. Vasant Nagar, Vasant ihar

TEL:9810127565

■Certified Public Auctioneer

C-2/2072, Vasant Kuni

TEL: 2689-5537

<引っ越し会社>

■Japan Express

875/2/1 Burari main Road Near Sant Nagar Police, Chowky

TEL:2761-6130/6137

■Nippon Express(日通)

The Tai Mahal Hotel, Suit No.412, No.1 Mansingh Road

TEL:2302-6162(ext.2412)

16.教育機関

<日本人学校>

■ニュー・デリー日本人学校(Japanese School I, New Delhi)

Pocket B&C, Sector-A, Vasant Kuni New Delhi

TEL:2689-1230/6816

URL: <http://www.ndjs.org/> E-mail: ndips@vsnl.com

入学金は3万円、授業料は月額8000ルピー+7000円(2001年4月より)である。授業料の日本円支払い分は「東京三菱銀行丸の内支店、非居住者円普通口座 0809705(ニュー・デリー日本人学校円授業料口座、代表:金澤潔)」に「転入学の月から3月までの月数×7000円」を納入する。また、授業料(ルピー分)および入学金は、東京三菱銀行ニュー・デリー支店に払い込む。

<外国人学校>

■The American Embassy School

Chandra Gupta Marg, Chanakyaपुरी

TEL:2611-1740~6

URL: <http://aes.ac.in> E-mail: aesindia@aes.ac.in

入学金は5750米ドル。受験料は200米ドルで、年間授業料は、保育園:5040米ドル、幼稚園:1万2240米ドル、1~5年生:1万2240米ドル、6~8年生:1万3170米ドル、9~12年生:1万3800米ドル。

■The British School

San Martin Marg, Chanakyaपुरी

TEL:2410-2183

E-mail: british@del2.vsnl.net.in

使用言語:英語

幼稚園から高校まで。

■The German School in New Delhi

2, Nvava Marg

TEL:2301-7420~5

E-mail: dsndelhi@del2.net.in

使用言語:ドイツ語

3歳から10歳まで。

■Ecole Francaise de Delhi

2, Aurangzeb Road

TEL:2301-7138

E-mail: efd@ndb.vsnl.net.in

使用言語:フランス語

幼稚園から高校2年まで。

<幼稚園>

■ニュー・デリー日本人学校付属幼稚園部

Pocket B&C, Sector-A, Vasant Kuni New Delhi

TEL:2689-1230, 2689-6816

URL: <http://www.ndjs.org/> E-mail: ndips@vsnl.com

入園料3万円、月額保育料:2万円+6500ルピー(2002年度)。

■Magic Year E-3,Vasant Vihar

TEL:2614-0317

使用言語: 英語
2歳半から。

- Step by Step Plot No.1, Panchsheel Cooperative Building Society N Block, Panchsheel Park
TEL: 2646-3130, 2621-3957

使用言語: 英語
2歳半~4歳。

- Little Senator's Nursery School

B-3 Street, Vasant Vihar
TEL: 2615-3196

1.5歳~5歳(詳細は問い合わせのこと)

17.図書館

- Children's Book Trust

B.C. Roy Memorial Library, Nehru House, Bahadur Shah Zafar Marg

- National Book Trust

A5 Green Park, Aurobindo Marg

- デリー日本人会室の図書室

B7/2 Safdarjung Enclave
TEL: 2616-6427

18.ガードマン派遣会社

- Group 4 Securitas Guarding Lte (グループ 4)

Khasra No.424/425, Bld.No.III, National Highway 8, Mahipalpur
TEL: 2678-3634/3615 FAX: 2678-4994

- Pawar Enterprises (パワール・エンタープライシス)

ST-16, First Floor, Satva Niketan Market
TEL: 2410-0595

19.日本の新聞、出版物の購入

- 海外新聞普及(株) (OCS) 輸出購読サービス

〒108-8701 東京都港区芝浦2-9-13
TEL: 03-5476-8131 FAX: 03-3453-8091
URL: <http://www.ocs.co.jp/> E-mail: subs@ocs.co.jp

20.ゴルフ場

- Delhi Golf Club (デリー・ゴルフクラブ)

Zakir Hussain Marg, near The Oberoi Hotel
TEL: 2436-2235

現地で最も歴史があり、 prestige を誇る名門コース。首都の中心部に位置し、交通至便、インド各界の著名人がメンバーの中心をなす。コース内に遺跡が点在し、異国情緒満点である。外国人は期間限定(3年)のメンバーシップを取得できるが、面接のほかにも実技テストを課せられることもある。チャージは3年間有効で約5000米ドル(夫婦で利用可能)。ほかにも毎月100米ドルの会費。ビジターフィーは休日で40米ドル。正規メンバーになるための手続きが面倒なのと、プレー予約の確保にやや難がある。

- DLF Golf Club (DLF ゴルフクラブ)

DLF Golf Links, DLF City, Gurgaon, Harana
TEL: 95124-638-6500

大手不動産会社が高級分譲住宅地とリンクさせて開発した高級コース。年間会員権3850米ドル。大手企業が法人会員として利用している。

- Classic Golf Resort (クラシック・ゴルフリゾート)

Tasanpur, Tauru, Gurgaon, Harana
TEL: (Office) 2614-7417

デリー市内から約1時間とやや遠いのが難点だが、コースはよく整備されており、値段も手ごろで、初心者でも利用できる使い勝手のよさが長所である。入会費は期間や人数により異なるが、5年間有効/家族利用可の場合、4650米ドル。日本人や韓国人が大勢入会している。ビジターフィーは会員同伴で約1000ルピー。

- Golden Green Golf Club (ゴールドデン・グリーンゴルフクラブ)

Gurgaon, Harana
TEL: (Office) 2614-7489

難易度が高く、中上級者向き。デリー市内から約50分。あまり人気がないためか、比較的安く入会できることとプレー予約が容易なのが長所。

- Jaypee Golf Club (ジェイピー・ゴルフクラブ)

Golf Course, G-Block, Surajpur Khasa Road Greater Noida
TEL: 95120-2639100, (Office) 2614-7738

デリー市内から約50分。アマチュアレベルのティーを選択しても7000ヤード近くあり、いたるところにウォーターハザードがある。

入会費年2000米ドル(2人利用可)。ビジターフィーは会員同伴で約1200ルピー。

- Qutab Public Golf Course(クトゥブ・パブリックゴルフコース)
 Press Enclave Marg Opposite Police Training School
 TEL: 2696-9086
 水曜休み。ピンターフィーが比較的手ごろ。

21.スポーツ施設

<テニス>

- Delhi Lawn Tennis Association(DLTA)(デリー・テニス協会)
 Africa Avenue(opp. RK Pram Sector2)
 TEL:2617-6140
- Ishwar Farm(イシュワル・ファーム)
 C-2/2308, Vasant Kuni
 TEL:2612-2950/4196
- The Blue Greens (ブルー・グリーンズ)⇒削除 Ishwar Farm へ名称変更
 C-2/2308, Vasant Kuni
 TEL:2612-2950/4196

<水泳>

- 日本人学校屋内プール
 Pocket B/C, Sector A, Vasant Kuni 日本人学校内
 日本人会水泳同好会がある(問い合わせ先:2601-3398)。

<その他>

- DDA Sports Complex(DDA スポーツ・コンプレックス)
 Siri Fort(シリフォート)および Saket(サケット)
 TEL:2646-7482(Siri Fort), 2696-5742(Saket)
 水泳、バドミントン、ローラースケートなどができる。

22.ボウリング場

- Future Bowl(フューチャー・ボウル)
 Aurobindo Marg, Essex Farm 内
 TEL:2652-8081
- Bowling Alley(ボウリング・アレー)
 Shaheel Jeet Singh Marg, Qutab Hotel 内
 TEL:2686-2711
- First Bowl 32nd Milestone(マイルストーン)
 Delhi Jaijpur Bypass, Gurgaon, Harvana
 TEL:95124-633-2571

23.趣味の教室

- Sangeet Shyamala(サンギート・シャマラ)
 A-12(opp.A-11/6), Vasant Vihar
 TEL:2614-1005
 音楽、インド舞踊、バレエ、ヨガなど。
- The American Embassy School Adult Education(アメリカンスクール成人教育)
 Chandrapuota Marg, Chanakvapuri
 TEL:2611-7140~6
 水彩画、ヨガ、写真、インド文化、インド料理、ダンスなど。
- Delhi School of Music(デリー・スクール・オブ・ミュージック)
 8, Nvava Marg, Chanakvapuri
 TEL:2611-5331
 ピアノ、声楽、バイオリン、管楽器、ダンスなど。コーラス、茶道、ブリッジなどは、日本人会内サークルがある(日本人会室に問い合わせること。TEL:2616-6427)
- Sri Aurobindo Ashram(アルビンドー・アシュラム)
 Sri Aurobindo Marg
 TEL:266-7863
 ヨガ。
 ヨガの教師は多くおり、自宅に出張してくれる場合も多い。

24.語学学習施設

- The American Embassy School Adult Education(アメリカンスクール成人教育)
 Chandrapuota Marg, Chanakvapuri
 TEL:2611-7140~6
 ヒンディー語クラス

■ English Language Teaching Centre-The British Council (ブリティッシュ・カウンシル英語センター)

17, Kasturba Gandhi Marg

TEL: 2371-1401~3

英語(2カ月コース、短期コースほか)

■ Alliance Française (アリアンス・フランセーズ)

D-13, South Extension II

TEL: 2625-8128

フランス語

25. 旅行代理店

■ Anand Travel Related Service

92, LGE World Trade Centre, Barakhamba Lane, New Delhi

TEL: 2341-2721 FAX: 2341-4186

JICA 事務所が主に利用している。

■ Indo Japan Air Service Pvt. Ltd. (IJAS)

Chandralok Building, 36 Janpath, New Delhi

TEL: 2332-7104, 2332-7608

JAL の子会社。

26. 保険会社

■ The New Delhi Assurance Co. Ltd.

C-19, Vasant Vihar Market, Paschimi Marg, New Delhi

TEL: 2614-29070/7426 FAX: 2615-4611

■ The Oriental Insurance Co. Ltd.

Divisional Office No.1 Jeevan Vihar Building, Parliament Street, New Delhi-11001

TEL: 2336-1521, 2331-5465 FAX: 2331-3942

■ Bajaj Allianz General Insurance Co. Ltd.

C-31&32, Connaught Place, New Delhi-110001

TEL: 2341-1416 FAX: 2341-5285

■ IFFCO-TOKIO General insurance Co. Ltd. (東京海上日動系)

IFFCO House, 3rd Floor, 34-Nehru Place, New Delhi-110019TEL: 2629-6981~88 FAX: 2629-6990
